

学校，大学，地域，警察が連携した青少年の危険行動防止 プロジェクトの有効性に関する縦断研究

神戸大学大学院人間発達環境学研究科

川畑 徹朗

兵庫教育大学学校教育研究科

西岡 伸紀

姫路市教育委員会

山下 雅道

神戸大学大学院人間発達環境学研究科

辻本 悟史

本報告書の構成を以下に示す。

- I. はじめに
- II. 研究方法
 - 1. 研究対象
 - 2. 研究デザイン
 - 3. 研究内容
 - 1) ライフスキル教育プログラムの実施
 - 2) 地域との連携活動
 - 3) 質問紙調査
- III. 結果
 - 1. ライフスキル教育プログラムの実施
 - 2. 地域との連携活動
 - 1) ライフスキル教育に関する保護者，地域住民を対象とした取組
 - 2) 保護者，地域，県警と連携した体験交流活動および講座・啓発活動
 - 3. 質問紙調査
 - 1) セルフエスティーム，社会的スキル，ストレス対処スキル，意志決定スキル，目標設定スキル，メディアリテラシー，心の健康度
 - 2) 飲酒，喫煙者率
 - 3) 飲酒，喫煙に関する自己効力感

- 4) 学校満足度および地域との絆
- IV. まとめと今後の課題
 - 1. ライフスキル教育プログラムの実施
 - 2. 地域との連携活動
 - 3. 質問紙調査
- V. 結論

I. はじめに

青少年の飲酒，喫煙，薬物乱用，性の逸脱行動，暴力等の危険行動は，本人はもとより周囲の人々や社会に与える影響も極めて大きい重大な問題であり，中学生の大麻所持・吸引による逮捕など，一部の危険行動は近年さらに早期化・深刻化する傾向が認められる。

効果的に危険行動を防止するためには，危険行動の形成にかかわる要因に焦点を当てた働きかけをすることが重要といえる。Jessor Rらの「問題行動理論」¹⁾によれば，青少年がとる様々な危険行動の根底には，共通してセルフエスティーム，意志決定スキル，ストレス対処スキル，社会的スキルなどのライフスキル（心理社会的能力）の問題が存在する。そしてこれまでに行われた研究によれば，ライフスキルを育成することによって，喫

煙、飲酒、薬物乱用を始めとする様々な危険行動を効果的・効率的に防止することができることが報告されている²⁾³⁾。また、学校教育の枠を超えて、保護者や自治体、地域社会が一体となって包括的なライフスキル教育プログラムを推進することにより、危険行動の防止のみならず、青少年の健全育成促進が期待される。

そこで本研究では、兵庫県姫路市の小・中学生を研究対象とし、学校、地域（保護者、自治体）、警察、大学、市教育委員会が連携した包括的な取組の下、セルフエスティームの形成を基礎におくライフスキル教育プログラムを実施し、青少年危険行動防止における有効性を評価し、青少年の健全育成のための、より包括的で効果的なモデルを提示することを目的とする。

本プロジェクトにおいては、学校、大学、教育委員会は、研究対象校の児童生徒のニーズに合わせたライフスキル教育プログラムの作成と実施、地域と警察は安心・安全なまちづくりの推進、体験交流活動等による青少年の居場所作りを行う（図1）。

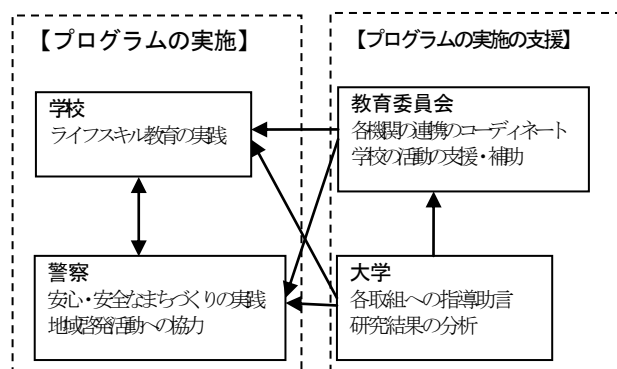


図1 各機関の役割

このような取組を実施し、その効果を科学的に検証することにより、学校における効果的なライフスキル教育プログラムの開発にとどまらず、地域の様々な資源を活用した包括的な青少年健全育成モデルを提唱することができると思う。

II. 研究方法

1. 研究対象

兵庫県姫路市内の小学校3校（介入校 Y 小、比較校 T 小および TN 小）の5、6年生および中学校2校（介入校 Y 中、比較校 T 中）の1～3年生を対象とした。なお介入校の選定にあたっては、授業および調査実施が可能であること、比較校の選定にあたっては調査実施が可能であり、できるだけ介入校と地域環境が似ている学校を選定した。表1に各調査の対象者数を示した。

2. 研究デザイン

研究デザインとしては準実験デザインを用いた。図2に研究フローチャートを示した。なお、本報告において分析の対象とする調査はベースライン調査、事後調査ⅠおよびⅡである。

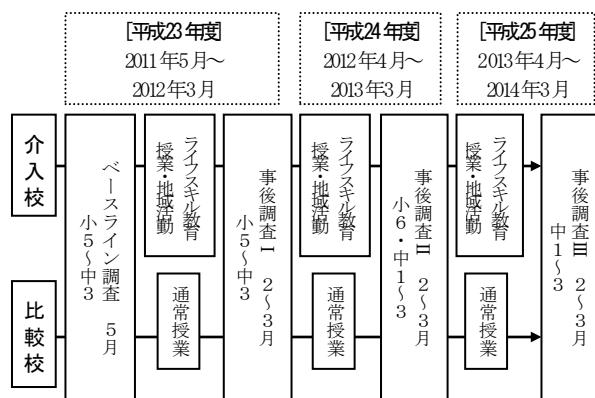


図2 研究フローチャート

3. 研究内容

1) ライフスキル教育プログラムの実施

2011年5月に実施したベースライン調査後、介入校の小・中学校各1校においては、JKYB ライフスキル教育研究会が開発した小学生版^{4, 5)}と中学生版⁶⁻⁸⁾をそれぞれ用いて、道徳、生活、総合的な学習の時間、特別活動等の機会を利用してライフスキル教育を継続して実施した。表2-1、表2-2には、平成24年度に実施したプログラムの内容を示した。

2) 地域との連携活動

保護者や地域住民を対象としたライフスキル教育に関する啓発活動（公開授業および講演）を行った。また、保護者、地域、県警と連携した体験交流活動および講座・啓発活動を行った。

3) 質問紙調査

2011年5月のベースライン調査, 2012年2～3月の事後調査Ⅰに引き続き, 2013年2～3月に事後調査Ⅱを実施した。

(1) データ収集

2011年5月, 2012年2～3月および2013年2～3月に, 前述の対象者に対して各教室において調査票を配付した。

この際, 原則として調査対象クラスの担任に調査実施を依頼した。調査実施方法の統一を図るために, 調査実施者用手引書を作成し, 生徒への説明や指示を具体的に記して, 指示内容以外の説明を行わないように求めた。

なお, 調査項目の中には, 未成年者においてはその使用が法律によって禁止されている喫煙や飲酒に関する調査項目も含まれているので, できるだけ正確な回答を得るために, 回答した内容についての秘密の保持に配慮した。第一に, 調査は自記入式の無記名調査とした。第二に, 記入後はあらかじめ各人に配付した封筒に記入済みの調査票を入れ, 封をさせた。第三に, 調査中は机間巡視をしないように調査実施担当教師に求めた。

また, 生徒に配付した調査票の表紙には, 答えた内容が他の人に知られないようにすることや, 調査は無記名であること, 答えたくない質問には回答しなくてもよいことなど, 倫理上の配慮を行

表1 調査対象者数

		全体	Y小	T小	TN小
小 6	ベースライン調査 (2011年5月)	404(男214,女190) 420(96.2%)	171(男89,女82) 185(92.4%)	144(男75,女69) 144(100%)	89(男50,女39) 91(97.8%)
	事後調査Ⅰ (2012年2月)	409(男219,女190) 420(97.4%)	180(男95,女85) 186(96.8%)	141(男73,女68) 143(98.6%)	88(男51,女37) 91(96.7%)
	事後調査Ⅱ (2013年2月)	400(男209,女191) 417(95.9%)	183(男95,女88) 190(96.3%)	127(男69,女58) 132(96.2%)	90(男45,女45) 95(94.7%)
		全体	Y中	T中	
中 1	ベースライン調査 (2011年5月)	437(男221,女216) 442(98.9%)	211(男99,女112) 212(99.5%)	226(男122,女104) 230(98.3%)	
	事後調査Ⅰ (2012年2-3月)	424(男217,女207) 445(95.3%)	206(男97,女109) 215(95.8%)	218(男120,女98) 230(94.8%)	
	事後調査Ⅱ (2013年2-3月)	377(男206,女171) 403(93.5%)	176(男96,女80) 184(95.7%)	201(男110,女91) 219(91.8%)	
中 2	ベースライン調査 (2011年5月)	391(男214,女177) 415(94.2%)	194(男103,女91) 205(94.6%)	197(男111,女86) 210(93.8%)	
	事後調査Ⅰ (2012年2-3月)	374(男204,女170) 414(90.3%)	181(男94,女87) 202(89.6%)	193(男110,女83) 212(91.0%)	
	事後調査Ⅱ (2013年2-3月)	415(男213,女202) 439(94.5%)	204(男98,女106) 213(95.8%)	211(男115,女96) 226(93.4%)	
中 3	ベースライン調査 (2011年5月)	387(男201,女186) 403(96.0%)	186(男93,女93) 189(98.4%)	201(男108,女93) 214(93.9%)	
	事後調査Ⅰ (2012年2-3月)	357(男181,女176) 403(88.6%)	173(男86,女87) 189(91.5%)	184(男95,女89) 214(86.0%)	
	事後調査Ⅱ (2013年2-3月)	370(男202,女168) 416(88.9%)	186(男98,女88) 202(92.1%)	184(男104,女80) 214(86.0%)	

* : 表中の上段の数字は有効回答数(男女内訳), 下段の数字は在籍者数(有効回答率)を示す
注: 学年は, 2013年2-3月時点

表 2-1 小学校におけるライフスキル教育実施内容

学年	学期	授業名	スキルの領域	時数
5	1	自分ができることに目を向けよう	SE 形成	3
	2	上手に話を聞こう	対人関係	1
	2	ストレスに強くなろう 1	ストレス対処	1
	2	目標に取り組もう	目標設定	1
	2	止まって！考えて！決めよう	意志決定	1
	3	友だちからのプレッシャー	対人関係	1
	3	断るテクニック	対人関係	1
6	1	おたがいをよく知ろう	SE 形成	1
	1	目標に取り組もう	目標設定	2
	2	前向きな自己会話	対人関係	2
	2	失敗なんてありえない	目標設定	1
	2	友だちをほめよう	SE 形成	1
	2	私の伝えたいこと	対人関係	1
	2	広告を調べよう	意志決定	1
	3	争いごとになる前に	対人関係	1
3	ストレスに強くなろう 2	ストレス対処	1	
特別支援 通年	1	自分の目標をもとう	目標設定	5
	2	どんな顔かな	対人関係	1
	3	成長した自分を発表しよう	SE 形成	8
	通年	おいしい野菜を育てよう	SE 形成	常時

表 2-2 中学校におけるライフスキル教育実施内容

学年	学期	授業名	スキルの領域	時数	
1	1	お互いをもっとよく知ろう	SE 形成	1	
	1	上手に話を聞こう	対人関係	1	
	1	自分の気持ちをうまく伝える 1, 2	対人関係	2	
	1	自己のイメージってなに？	SE 形成	2	
	1	自分について知る	SE 形成	1	
	1	ストレスの矢 1	ストレス対処	2	
	2	より良い決定をする 1, 2	意志決定	1	
	3	自己のイメージを改善しよう	SE 形成	1	
	3	自分を向上させるための目標	SE 形成	1	
	3	賞賛（秘密の友だち）	SE 形成	2	
	2	1	お互いをもっとよく知ろう	SE 形成	1
		1	自己主張的コミュニケーションスキルの復習	対人関係	2
1		メディアの影響	意志決定	1	
1		喫煙や飲酒の誘いに対処する	意志決定	1	
1		誤解を避ける	対人関係	2	
1,2		争いを避ける 1, 2	対人関係	1	
2		上手に話を聞こう	対人関係	1	
3		怒りへの対処	対人関係	1	
3		意志決定スキルの復習	意志決定	2	
3		賞賛（秘密の友だち）	SE 形成	2	
3		1	お互いをもっとよく知ろう	SE 形成	1
		1	自分の将来を考える 1	目標設定	1
	1	自分を向上させるための目標	目標設定	1	
	1	自分の目標達成を妨げること	目標設定	2	
	1,2	自分の気持ちを上手く伝える 1, 2	対人関係	3	
	2	不安や怒りに対処する	ストレス対処	1	
	3	賞賛（秘密の友だち）	SE 形成	2	

った。また、調査に先立って、こうした留意事項を調査実施者が生徒の前で読むように、調査実施者用手引書において指示した。

さらに、縦断調査データ照合をするために、調査回数と同じ枚数の6桁のID番号を印字したタックシールが入った小封筒を無作為に各人に配付した。児童生徒は、調査票に記入後、調査票の所定の位置にシールを貼り、残りのシールは各人が小封筒に入れて密封し、小封筒の表紙に自分の名前を書いた後に返却した。回収した小封筒は研究者が保管し、2回目以降の調査実施時に調査実施者が再配付することにした。以上の手続きによって、無記名調査でありながら、個人のデータを照合することを可能にした。

(2) 調査項目

表3には、本研究にかかわる主な調査項目を示した。

・セルフエスティーム、社会的スキル、ストレス対処スキル、意志決定スキル、目標設定スキル、メディアリテラシー

セルフエスティームの尺度に関しては、我が国の青少年の喫煙、飲酒行動を始めとする危険行動の関連要因に関する研究において比較的よく使用されていることを考慮して、先行研究に倣い、友人関係に関するセルフエスティームの測定には Harter⁹⁾の尺度、家族関係に関するセルフエスティームの測定には Popeら¹⁰⁾の尺度、全般的なセルフエスティームの測定には Rosenberg¹¹⁾の尺度を用いることとした。

三つのセルフエスティームに関する尺度はいずれも、得点が高いほど各セルフエスティームのレベルが高いことを示すように項目の得点を変換して、合計得点を求めた。

社会的スキルの測定には、嶋田ら¹²⁾が開発した尺度を用いた。本尺度は「向社会的スキル」、「引っ込み思案行動」、「攻撃行動」の三つの下位尺度

から構成されている。いずれの尺度についても、得点が高いほど各スキルをよく使うことを示すように項目の点数を変換して、合計得点を求めた。

ストレス対処スキルの測定には、大竹ら¹³⁾のコーピング尺度の短縮版を用いた。この尺度は「サポート希求」、「問題解決」、「気分転換」、「情動的回避」、「行動的回避」、「認知的回避」の六つの尺度から構成され、得点が高いほど各対処法をよく使うことを示すように項目の点数を変換して、合計得点を求めた。

意志決定スキルおよび目標設定スキルの測定には、春木ら¹⁴⁾が開発した尺度を用いた。これらの尺度は得点が高いほど各尺度をよく使うことを示すように項目の点数を変換して、合計得点を求めた。

メディアリテラシーの測定には、Primack¹⁵⁾のたばこに関するメディアリテラシー尺度を翻訳し、日本の状況に合った内容に修正して用いた。この尺度は得点が高いほどメディアリテラシーのレベルが高いことを示すように項目の点数を変換して、合計得点を求めた。

・飲酒、喫煙行動と自己効力感

飲酒行動に関しては、今までに、酒やビールを一口でも飲んだことがある者を生涯飲酒経験者、この1か月間に酒やビールを飲んだ者を月飲酒者と定義した。

喫煙行動に関しては、今までに、たばこを一度でも吸ったことがある者を生涯喫煙経験者、この1か月間にたばこを1本以上吸った者を月喫煙者と定義した。

また飲酒および喫煙に関する自己効力感として、20歳まで飲酒[喫煙]をしない自信、友だちからの酒[たばこ]の勧めを断る自信について質問した。得点が高いほど自己効力感が高いことを示すように点数を変換した。

表3 主な調査項目

【属性】性，学年，学校種，年齢

【セルフエスティーム】

- ・友人に関するセルフエスティーム <Harter の尺度> 4 件法 7 項目：7～28 点
- ・家族に関するセルフエスティーム <Pope らの尺度> 3 件法 10 項目：10～30 点
- ・全般的なセルフエスティーム <Rosenberg の尺度> 3 件法 10 項目：10～30 点

【社会的スキル】 <嶋田らの尺度> 4 件法

- 向社会的スキル 7 項目：7～28 点
- 引っ込み思案行動 4 項目：4～16 点，
- 攻撃行動 4 項目：4～16 点

【ストレス対処スキル】 <大竹らの尺度> 4 件法

- サポート希求，問題解決，気分転換，情動的回避，行動的回避，認知的回避
- 各 2 項目：各 2～8 点

【意志決定スキル】 <春木らの尺度> 4 件法 8 項目：8～32 点

【目標設定スキル】 <春木らの尺度> 4 件法 11 項目：11～44 点

【メディアリテラシー】 <Primack の尺度> 4 件法 18 項目：18～72 点

【行動】

- ・生涯飲酒経験（②を選択した者を生涯飲酒経験者とした）
①飲んだことがない ②飲んだことがある より 1 つ選択
- ・この 1 か月間の飲酒経験（②③を選択した者を月飲酒者とした）
①飲んでいない / ② 1 回飲んだ ③ 2 回以上飲んだ より 1 つ選択
- ・生涯喫煙経験（②を選択した者を生涯喫煙経験者とした）
①吸ったことがない ②吸ったことがある より 1 つ選択
- ・この 1 か月間の喫煙経験（②～④を選択した者を月喫煙者とした）
①吸っていない / ② 1 本吸った ③ 2～19 本吸った ④ 20 本以上吸った より 1 つ選択

【自己効力感】 5 件法

- ・今から 20 歳になるまで酒を飲まない [たばこを吸わない] 自信
①ぜったい飲ま[吸わ]ないと思う ②たぶん飲ま[吸わ]ないと思う ③どちらともいえない
④たぶん飲む[吸う]と思う ⑤ぜったい飲む[吸う]と思う より 1 つ選択
- ・友だちからの酒[たばこ]の勧めを断る自信
①ぜったいできると思う ②たぶんできると思う ③どちらともいえない
④たぶんできないと思う ⑤ぜったいできないと思う より 1 つ選択

【心の健康度】 <柴田らの尺度> 5 件法 4 項目：4～20 点

【学校満足度】 <高倉らの尺度>

- ・学校についてどう思っているか
①まったく好きでない ②あまり好きでない ③少し好きである ④とても好きである
より 1 つ選択

【地域との絆】

- ・地域の人との挨拶の頻度
①しない ②あまりしない ③ときどきする ④よくする より 1 つ選択
- ・地域の行事への参加頻度
①参加していない ②あまり参加していない ③ときどき参加している ④よく参加している
より 1 つ選択

注： ・ 自己効力感は①＝5 点，②＝4 点，③＝3 点，④＝2 点，⑤＝1 点に変換した
・ 学校満足度，地域との絆は①＝1 点，②＝2 点，③＝3 点，④＝4 点とした
・ 表内の / は質問項目を 2 択に分割し，分析した際の回答肢の区分を示す

・心の健康度、学校満足度、地域との絆

心の健康度の測定には柴田ら¹⁶⁾による小学生版 QOL 尺度の情動的 Well-Being の項目を用いた。得点が高いほど心の健康度が高いことを示すように項目の点数を変換して、合計得点を求めた。

学校満足度の測定には高倉ら¹⁷⁾の尺度を用い、得点が高いほど満足度が高いことを示す。

地域との絆は、地域の人との挨拶の頻度と地域の行事への参加頻度について回答を求め、得点が高いほど各頻度が高いことを示す。

(3) 分析方法

学年別、性別、調査年別に各質問項目について介入校と比較校間の差を比較検討した。

検定方法は、セルフエスティーム、社会的スキル、ストレス対処スキル、意志決定スキル、目標設定スキル、メディアリテラシー、心の健康度については、小学校では分散分析、中学校では対応のない2標本間の平均値の差に関する t 検定を用いた。また飲酒、喫煙行動については、対応のない標本間の比率の差に関する χ^2 検定を用いた。飲酒、喫煙行動に関する自己効力感、学校満足度、地域との絆（挨拶、行事参加）については、小学校では Kruskal Wallis 検定、中学校では対応のない2標本間の中央値の差に関する Mann-Whitney 検定を用いた。

なお、分析に際しては、統計プログラムパッケージ SPSS 14.0J for Windows を使用し、統計上の有意水準は5%とした。

Ⅲ. 結果

1. ライフスキル教育プログラムの実施

プログラムの実施に先立ち、平成21年度よりライフスキル教育授業の実践に向けて、介入小・中学校、大学、県警、市教育委員会が連携して、教職員のライフスキル教育実践を支援する取組を継続的に実施してきた。平成21～24年度におけるライフスキル教育実践のための取組の概要は、以下

の通りである。

- ・平成21年度：教職員がライフスキル教育について学ぶ準備の年度として、研修会参加やライフスキル教育先進校視察を通して教員研修を行うとともに、大学、県警、市教育委員会、介入小・中学校とが集まり打ち合わせを行った。また、3学期には、研究授業を行い、研修で学んだことを実践した。
- ・平成22年度：教職員が研修を継続しつつ実践も行う実行準備の年度として、年間5コマ程度のカリキュラムを作成し、ライフスキル教育授業を実践した。また、教職員の実践力および理論の理解を高めるため、介入小・中学校合同教職員研修（県警も参加）を2回行った。年度末には、大学、市教育委員会、介入小・中学校担当者で打ち合わせを行い、平成22年度の取組および成果を振り返るとともに、平成23年度のカリキュラム、講座、啓発活動の計画を確認した。
- ・平成23年度：ライフスキル教育授業実践の時数の確保および実践の年度として、年間10コマ程度のカリキュラムを作成し、実践を行った。また、教職員研修（県警、市教育委員会も参加）を介入小・中学校合同で2回行った。
- ・平成24年度：実行と評価の年度として、授業時数の確保と成果について検討・改善を行った。介入小・中学校同時開催による公開授業を行い、小・中学校の連携を図った。

また、ライフスキル教育プログラム実施に際しては、行動科学とりわけセルフエスティームやライフスキルの理論について十分に理解することに加えて、プログラムで用いられる主な学習活動を実際に体験することが重要であることを考慮して、介入校の教員は JKYB ライフスキル教育研究会が主催するワークショップや教育講演会への参加、介入小・中学校合同研修によって、プログラム実施に必要な基礎的知識やスキルの習得に努めた。

なお、平成 24 年度における教職員研修実施状況は以下の通りである。

- ・第 21 回 J K Y B 健康教育ワークショップ伊丹 (7 月 26, 27 日)

表 4 には、ワークショップのプログラムの概要を示した。

- ・介入小・中学校ライフスキル教職員研修会 (8 月 1 日)
- ・姫路市教育委員会主催ライフスキル教育研修会 (8 月 28 日)
- ・姫路市ライフスキル研修会 (8 月 28 日)
- ・JKYB 健康教育ワークショップ関東 (12 月 2, 3 日)

ワークショップに参加した教職員が各学校の教職員研修会にてその成果を報告することによって、より多くの教職員とワークショップで得た知見を共有することができた。こうした複数回に亘る教職員研修を行うことにより、小・中学校での実践を円滑に進めることができた。

プログラム内容については、セルフエスティ

ム形成スキル、社会的スキル (対人関係スキル)、ストレス対処スキル、意志決定スキル、目標設定スキルの五つのライフスキルの形成を柱に、学年に応じたスキル習得を目標とし、ワークシートやグループワークを導入し、生徒参加型の授業内容になるよう構成した。

児童生徒の発達段階や学校生活環境の変化を踏まえ、小学校 5 年生と特別支援学級はセルフエスティーム形成スキル、6 年生は目標設定スキル、中学校 1 年生はセルフエスティーム形成スキル、2 年生は対人関係スキル、3 年生は目標設定スキルの習得に重点を置くようプログラムを構成した。各校全職員が一丸となって取り組むことにより、小・中学校の全学年において、一年間を通して体系的にプログラムを実施することができた。

ライフスキル教育授業の後には、授業実施にかかわる成果や改善点について振り返りを行い、今後の課題を検討した。以下には、介入校の教職員による平成 24 年度の授業の成果と課題の一部を記した。

表 4 第 21 回 J K Y B 健康教育ワークショップ伊丹のプログラムの概要

	初参加者コース	経験者コース
26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・行動変容につながる健康教育の理論的基礎 (川畑徹朗) ・J K Y B 喫煙防止教育プログラム N I C E II の理論と実際 (西岡伸紀) 	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフエスティーム形成教育 (川畑徹朗) ・対人関係スキル形成教育 (西岡伸紀) ・健全なボディイメージの形成 (千須和直美) ・メディアリテラシー教育 (千須和直美) ・ライフスキル教育実践報告(1) (村上啓二)
27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・J K Y B 食生活教育プログラム (春木敏) ・セルフエスティーム形成教育の理論と実際 (川畑徹朗) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい歯と口の件貴校教育プログラム (武典子) ・ライフスキル形成を基礎とする中学生用性教育プログラム (川畑徹朗, 李美錦) ・小学校におけるライフスキル教育の体験学習 (関根幸枝) ・中学校におけるライフスキル教育の体験学習 (眞下真澄) ・ライフスキル教育実践報告(2) (東尾真紀子)
	初参加者・経験者共通コース	
	ライフスキル教育実践報告(3) (山下雅道)	

【成果】

- ・授業の中でよりよい人間関係が築けることを体験し、それを常時活動に取り入れることにより生徒がより明るく元気になってきた。
- ・友だちの良いところを見つけ、自分も友だちから良いところを見つけてもらうことで、自分を見つめるきっかけとなり、自分への自信につながりつつある。
- ・仲良しの友だちだけでなく様々な友だちの良いところが見つかり、クラスの仲間意識が高まってきた。
- ・お互いの良さを認め合うことにより、自分の良さにも気づき始めた。
- ・友だちやクラスで「目標」を共有することは、学級や学年でのまとまりにつながり、友だち相互の教え合いや励ましあいが見られ始めた。

【課題】

- ・学習の効果をさらに高めるために、生徒の発達段階や習得状況を考慮し、カリキュラムの再編や改善を行う必要がある。
- ・様々な場面で、支援をしたりがんばりを褒めたりして自尊感情が高まるようにしているが、意欲的に活動を続けることが難しい生徒もいる。次の活動にも自信をもって積極的に参加できるように支援の工夫が必要である。
- ・授業で学習したスキルが日常生活で定着していくよう、今後も継続的に支援していく必要がある。
- ・継続的な取組が難しい。いろいろな場面で生徒の実態に応じて教材を工夫し、具体的な実践の中で細かいところまで見て、その子らしさや自分らしさを認められるようにしていく必要がある。

2. 地域との連携活動

保護者や地域住民、警察と連携し、保護啓発活動や講座、児童生徒の活動支援を行い、生徒の活

動の場作りを進めるとともに、安心・安全なまちづくりの推進に取り組んだ。

1) ライフスキル教育に関する保護者、地域住民を対象とした取組

(1) ライフスキル教育公開授業の実施

ライフスキル教育や地域との連携活動に対する保護者や地域住民の理解を促すことを目的として、平成 22 年度より公開授業や講演会を継続的に行ってきた。平成 23 年 12 月に介入中学校の保護者を対象として行われたアンケート調査の結果では、「ライフスキル教育について知っているか」という質問に対して、「よく知っている」13%、「知っている」66%、「知らない」21%であり、「よく知っている」と「知っている」と回答した保護者の合計は約 80%であった。こうした結果は、公開授業や講演会、啓発活動等の成果であると考えられる。このように、保護者のライフスキル教育に対する理解や関心を高めることにより、家庭教育や地域での教育活動においても、ライフスキル教育の考え方に基づいた教育がなされることが期待される。このように、学校のみならず家庭や地域においても一貫した教育が行われることにより、ライフスキル教育の効果が相乗的に高まるものと考えられる。

平成 24 年度におけるライフスキル教育公開授業および講演会の実施状況は以下の通りである。

【小学校】

- ・第 1 回：公開授業（6 月 13 日）
- ・第 2 回：公開授業および教育講演会（11 月 20 日）

【中学校】

- ・第 1 回：公開授業（5 月 12 日）
- ・第 2 回：公開授業および家庭教育講演会（10 月 28 日）
- ・第 3 回：全市対象公開授業および教育講演会（11 月 20 日）

(2) 保護者・地域住民を対象としたライフスキル教育に関する啓発活動

・家庭教育講演会（10月28日 保護者対象）

児童生徒が起こす問題行動・危険行動の根本的な解決には、法的な知識、道徳心、自律心と共に、健全な自尊心（セルフエスティーム）を育むことが重要と言われている中で、学校の授業ではライフスキル教育を実施していることを説明した。また、そうした学習の中で、生徒がコミュニケーションスキル、目標設定スキル、意志決定スキル、ストレス対処スキルを習得し、よりよい生き方を考え、実践する力をつけるよう取り組んでいることを保護者・地域・関係者の方々に理解してもらい、今後の家庭教育、地域での教育活動に役立ててもらうことをねらいとした。

・メディアの影響への対処スキル体験講座

（2月2日 保護者・地域住民対象）

保護者・地域住民を対象に、メディアの影響への対処スキルを習得することを目的としたライフスキル教育授業を行った。保護者・地域住民がライフスキルの授業を実際に体験することで、飲酒・喫煙の誘いに上手に断る手法を知り、地域全体で児童生徒を育成することを目的として行った。

・地域講座（5月18日 保護者・地域住民対象）

学校長が地域住民に対して中学校での教育活動について発表した。その中でも、ライフスキル教育の取組について詳しく紹介し、中学校での授業の様子を知らせた。

2) 保護者、地域、県警と連携した体験交流活動および講座・啓発活動

保護者や PTA、自治会地域住民、警察、少年補導委員会、こども見守り隊、姫路市危機管理室、市教育委員会が連携して、地域体交流活動や安心な町づくりに向けた講座・啓発活動を行った。

平成 24 年度に実施した体験交流活動および講座・啓発活動は以下の通りである。

【小学校】

・防犯教室

警察を招き、劇を交えて講演してもらうことで、命の大切さに気付くことができた。また、地域の方に防犯ブザーをプレゼントしてもらい、地域、警察など関係機関の方に守ってもらっていることに気付くことができた。

・地区探検

お店の人に元気よく挨拶したり質問したりすることで、意欲的に活動することができ、自分たちの校区を見直す機会になった。さらに、お礼の手紙を書くことで、感謝の気持ちを伝えることができた。

・環境体験学習

地域の山里などでの環境体験学習を通して、生き物の命のつながりを学ぶことができた。また、サツマイモの収穫体験では、育てる大切さや収穫する喜びを感じ、土や水などの自然からたくさんの恩恵を受けているだけでなく、多くの人たちに支えられて生活していることを学ぶことができた。さらに、支えられるだけでなく、河川の清掃活動団体と一緒に清掃活動を行うことを通して、自分ができることを考えたり、見つけたりする良い機会となった。

・消防体験

消防署の方に来ていただき、お話を聞いたり消防車や消火のための道具を見せてもらったりしたことで、自分たちは多くの人たちに守られ、大切にされていることを感じる事ができた。

・ふれあいプール

幼稚園児を小学校のプールに招き、短時間ではあるが、園児を楽しませるように工夫して活動し、高学年としての自分の立場と成長を実感することができた。

・おいしい野菜を育てよう

地域の方の指導のもと、学習園に夏野菜の苗を

植え、常時活動として草引き、水遣りなどを協力して行い、収穫を迎えることができた。自分たちが育てた野菜で調理を行うことは、児童の達成感や自己有能感を高めることにつながった。また、調理には、保護者を始め、卒業生の生徒や、地域に住んでいる他の学校の児童も参加して、多くの人と交流を持つことができた。さらに、七夕では、野菜で動物を作ってお供えをし、生命の大切さや自然に感謝することの大切さに気づくことができた。

【中学校】

・地域ボランティア

平成24年度は、校区の通学路を安全かつ美しくする取組を姫路市提案型協働事業として、自治会並びに少年補導委員会が取り組んだ。そうした活動にボランティアとして生徒が参加し、地域の大人やPTA、警察官と共に、自分たちの通学路のガードレールの補修・ペンキ塗りを行った。

・福祉ボランティア

地域の福祉施設を70名の生徒ボランティアらが訪問し、利用者に楽しんでいただける演奏や遊びを行った。これらの活動は、地域の方に中学校の生徒を知っていただく良い機会にもなった。

・農園栽培活動

生徒が地域の中で、地域の大人や小さな子どもと触れ合う機会をつくっている。畑は、地域の方の好意で借り、生徒も大人と一緒に汗を流し働くことで成就感・達成感を実感できた。6月のジャガイモや10月末のサツマイモの収穫時には、生徒や園児、PTA、教育委員会、警察官等、約100名の規模で作業をした。生徒は園児の世話をしながらイモ掘りをしたり、PTAの女性チームと一緒に収穫した野菜やイモの調理をしたり、肥料を入れ、新しく苗を植えるための畝づくりをしたりと活躍した。生徒は生徒会本部役員が全校生徒に呼びかけ、ボランティアを募った。日々の水やり

等をしてきている生徒もいた。

・非行防止教室

警察と連携して講演会を行い、生徒を取り巻くネット環境からつながる犯罪について学んだ。また、生徒がとる行動が及ぼす危険性と、それを防ぐ方法等について学んだ。

・薬物乱用防止教室

生徒たちを取巻く環境の中で、生徒自身が正しい判断と行動をとることが不可欠である場面は多々ある。正しい判断を取るためには、正しい知識と現在の状況を知ることは必要条件である。警察の協力を得ながら、たばこ・シンナーを取り上げ、薬物について理解を促し、責任を持った行動をとろうとする意欲を向上させた。

・防犯教室

警察との連携により、規範意識を高め、罪を犯さないことを目的として講演会を実施した。また、犯罪に巻き込まれない知識と実践力を身に付けることができた。さらに、巻き込まれたときの対処法を学ぶことができた。

・命の大切さを学ぶ授業

警察と連携した講演会を実施し、犯罪被害者家族の体験談を聞くことで、親子・きょうだいの絆の大きさを確認できた。また、家族を亡くした悲しさ、悔しさ、怒りに触れることで、人を大切に、思いやりのある社会を作ろうとする心を養うことができた。

・しめ縄づくり

地域ボランティアを招いて、正月前にしめ縄づくりを行った。平成24年度は20名を超えるボランティアの参加があり、1年生の生徒と一緒にしめ縄を作った。生徒たちもボランティアの方々と話をするなど楽しそうに取り組むことができた。地域の方との交流を図ることができた。

・震災から学ぶ授業

兵庫県警察本部生活安全部少年育成課神戸西部

少年サポートセンター（のじぎく隊）の巡査部長を講師として招き、東日本大震災後の現地での活動体験について講話を聞いた。その話を通して災害の恐怖だけでなく命の大切さや人とのつながりを身近なものとして考え、今後の家庭や学校での生活で、災害に備えた取組を実践する機会になった。

・未成年者飲酒・喫煙防止活動

生徒の描いた未成年者飲酒・喫煙防止を呼びかけるポスターを持参し、地域の方への協力依頼状と合わせて、商店や祭りの代表者を訪問した。平成22年度より活動しており、生徒の代表と警察官、校区少年補導委員、姫路市教育委員会、校区の子ども見守り隊、姫路市危機管理室等と共に啓発活動を行った。生徒はもちろん、地域の方がポスターや生徒たちの活動を見ることで、青少年健全育成への意識が高められることをねらいとした。活動は年間3回行い、第1回はゴールデンウィーク前、第2回は秋祭りの前、第3回は年末とした。本活動を通して、未成年者の飲酒や喫煙は絶対に許されないという意識を高めることができた。

3. 質問紙調査

ここではとりわけ、2011～2013年の質問紙調査で、学校間に違いがみられたものを挙げる。

1) セルフエスティーム、社会的スキル、ストレス対処スキル、意志決定スキル、目標設定スキル、メディアリテラシー、心の健康度

学年別、性別、調査年別にみた、セルフエスティーム、社会的スキル、ストレス対処スキル、意志決定スキル、目標設定スキル、メディアリテラシー、心の健康度の得点の平均値と標準偏差を表5-1～表5-4に示した。

まず、小学校6年生男子では、セルフエスティーム「家族」、「全般」、社会的スキルの「向社会的スキル」、メディアリテラシーについて、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められ

なかったものの、2013年ではY小がT小、TN小より得点が有意に高かった。社会的スキルの「攻撃行動」については、2011年、2012年にはいずれも有意差が認められなかったものの、2013年ではY小がT小、TN小より得点が有意に低かった。ストレス対処スキルの「サポート希求」、「気分転換」については、2011年では「サポート希求」はY小がT小、TN小より得点が有意に低く、「気分転換」はY小がT小よりは低く、TN小よりは高かったものの、2013年ではいずれも学校間に有意差は認められなかった。また、ストレス対処スキルの「問題解決」、意志決定スキル、目標設定スキルについては、2011年はY小がT小、TN小より得点が有意に低かったものの、2013年はY小がT小、TN小より有意に高かった。心の健康度についてはいずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

小学校6年生女子では、セルフエスティーム「友人」、社会的スキルの「向社会的スキル」、意志決定スキルについて、2011年ではY小はT小、TN小より得点が有意に低かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。また、メディアリテラシーは、2011年、2012年には学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY小はT小、TN小より有意に高かった。他の調査項目については、いずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

中学1年生男子では、セルフエスティーム「家族」、社会的スキルの「向社会的スキル」、意志決定スキル、目標設定スキルについては、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差は認められなかったものの、2013年はY中がT中より有意に低かった。社会的スキルの「攻撃行動」については、2012年はY中がT中より有意に低かったものの、2013年はY中が有意に高かった。社会的スキルの「引っ込み思案行動」については、2011年で

表5-1 学年別, 性別, 調査年別にみたセルフエスティーム, ライフスキル, メディアリテラシーおよび心の健康度の得点<小学生>

調査項目		小学校 6 年生 男子					小学校 6 年生 女子				
		平均値±標準偏差			F 値	p 値	平均値±標準偏差			F 値	p 値
		Y 小	T 小	TN 小			Y 小	T 小	TN 小		
友人に関する自尊心	2011年	20.2±3.6	20.2±3.6	19.3±4.1	F=0978	p=0378	17.9±3.3	19.3±3.6	18.6±2.9	F=3054	p=0050*
	2012年	20.0±4.0	20.1±3.9	19.4±4.4	F=0429	p=0652	18.2±3.1	18.5±3.3	18.5±3.1	F=0170	p=0844
	2013年	20.4±4.4	19.5±3.9	19.7±3.4	F=1203	p=0302	18.3±3.5	17.9±4.2	18.2±3.2	F=0140	p=0870
家族に関する自尊心	2011年	24.1±3.6	23.6±4.0	24.7±3.9	F=1039	p=0356	23.0±4.3	23.1±4.4	24.1±3.9	F=0991	p=0373
	2012年	24.2±4.0	23.7±3.9	23.9±4.4	F=0401	p=0670	22.9±4.1	21.9±3.9	22.6±4.2	F=1128	p=0326
	2013年	24.8±4.3	23.8±3.9	22.3±3.8	F=6158	p=0003**	23.9±3.9	22.8±4.4	22.6±3.9	F=2145	p=0120
全般的自尊心	2011年	21.2±3.4	21.0±3.6	21.2±4.3	F=0130	p=0878	19.8±4.2	20.1±4.5	20.3±4.0	F=0142	p=0868
	2012年	21.6±3.7	20.6±4.0	20.7±4.5	F=1766	p=0174	20.2±3.9	19.3±3.8	19.2±3.9	F=1483	p=0230
	2013年	21.7±4.5	20.4±4.1	19.8±3.8	F=3461	p=0033*	20.2±4.2	19.5±4.4	18.8±4.2	F=1617	p=0201
向社会的スキル	2011年	20.9±3.7	20.7±3.3	21.5±3.8	F=0902	p=0407	21.6±2.9	22.8±3.3	22.9±3.2	F=3547	p=0031*
	2012年	20.8±3.6	21.1±2.9	20.8±3.7	F=0151	p=0860	22.1±3.2	22.9±2.9	21.9±2.8	F=1565	p=0212
	2013年	22.6±3.4	20.8±3.4	19.6±3.4	F=12797	p<0000**	22.6±3.5	21.5±2.9	22.0±2.4	F=2442	p=0090
引込み思案行動	2011年	6.1±2.5	6.3±2.5	7.0±2.4	F=2293	p=0104	7.3±2.4	7.4±2.3	7.8±2.5	F=0567	p=0568
	2012年	6.2±2.6	5.9±2.4	7.1±3.1	F=2845	p=0060	7.1±2.2	7.2±2.2	6.9±2.3	F=0155	p=0856
	2013年	5.6±2.4	5.6±2.6	5.6±1.8	F=0003	p=0997	6.4±2.5	6.7±3.1	6.2±2.3	F=0506	p=0603
攻撃行動	2011年	7.8±2.3	8.1±2.3	7.7±2.1	F=0485	p=0616	7.3±2.1	7.2±2.5	7.0±1.9	F=0171	p=0843
	2012年	8.1±2.4	7.6±2.3	7.8±2.2	F=1161	p=0315	7.4±2.2	7.1±2.1	7.3±1.9	F=0526	p=0592
	2013年	6.7±2.0	7.3±2.6	8.0±2.0	F=5617	p=0004**	6.7±2.2	7.2±2.7	7.1±1.9	F=0861	p=0424
サポート希求	2011年	4.7±1.7	5.5±1.6	5.5±1.7	F=6183	p=0002**	5.2±1.8	5.8±1.8	5.8±1.5	F=2800	p=0063
	2012年	5.1±1.7	5.5±1.7	5.1±1.8	F=1237	p=0292	5.7±1.5	5.9±1.8	5.6±1.4	F=0391	p=0677
	2013年	5.5±1.7	5.3±1.7	5.2±1.7	F=0467	p=0627	5.3±1.7	5.5±1.7	5.4±1.6	F=0402	p=0670
問題解決	2011年	5.2±1.5	5.5±1.2	6.0±1.6	F=5847	p=0003**	5.9±1.2	6.2±1.3	6.3±1.3	F=1821	p=0165
	2012年	5.5±1.5	5.6±1.5	5.8±1.3	F=0609	p=0545	6.1±1.3	6.3±1.5	6.2±1.3	F=0464	p=0629
	2013年	6.1±1.3	5.8±1.8	5.1±1.5	F=6457	p=0002**	6.1±1.5	5.7±1.5	6.0±1.4	F=1723	p=0181
気分転換	2011年	6.3±1.5	6.5±1.6	5.4±2.0	F=7519	p=0001**	5.0±1.5	5.5±1.7	4.8±1.4	F=2493	p=0085
	2012年	6.0±1.6	6.3±1.5	5.8±1.6	F=1107	p=0332	5.2±1.7	5.1±1.8	4.9±1.6	F=0286	p=0752
	2013年	5.7±1.7	6.0±1.8	6.4±1.5	F=2125	p=0122	4.7±1.7	5.3±1.9	4.8±1.5	F=2764	p=0066
情動的回避	2011年	3.7±1.6	4.2±1.5	3.8±1.7	F=1723	p=0181	4.6±1.8	5.1±1.7	4.6±1.5	F=1394	p=0251
	2012年	3.9±1.4	3.8±1.7	4.1±1.7	F=0383	p=0682	5.1±1.8	5.3±1.7	5.0±1.8	F=0315	p=0730
	2013年	4.0±1.8	4.0±1.6	3.7±1.7	F=0536	p=0586	5.3±1.7	4.7±1.8	4.7±1.7	F=2746	p=0067
行動的回避	2011年	3.5±1.4	3.4±1.3	3.2±1.3	F=0754	p=0472	3.7±1.4	4.0±1.7	3.6±1.4	F=1104	p=0334
	2012年	3.5±1.3	3.5±1.4	3.5±1.4	F=0071	p=0931	4.0±1.5	3.8±1.5	3.9±1.3	F=0403	p=0669
	2013年	3.3±1.1	3.5±1.5	3.4±1.3	F=0302	p=0740	3.6±1.4	3.7±1.5	3.5±1.4	F=0288	p=0750
認知的回避	2011年	4.8±1.4	4.9±1.4	4.6±1.6	F=0763	p=0468	4.7±1.3	4.8±1.6	4.4±1.3	F=1008	p=0367
	2012年	4.5±1.5	4.9±1.5	4.9±1.6	F=1694	p=0186	4.7±1.7	4.6±1.7	4.6±1.3	F=0060	p=0942
	2013年	4.4±1.4	4.3±1.5	4.7±1.4	F=1053	p=0351	4.4±1.5	4.8±1.5	4.7±1.4	F=1184	p=0308
意志決定スキル	2011年	20.4±4.6	21.1±4.7	24.4±4.2	F=12568	p<0000**	21.8±4.2	22.6±4.7	24.0±3.6	F=3438	p=0034*
	2012年	20.6±4.7	21.4±4.7	22.2±4.2	F=1906	p=0151	21.1±4.7	22.7±3.9	21.5±4.2	F=2540	p=0082
	2013年	23.6±4.5	22.2±4.8	19.3±5.2	F=12244	p<0000**	22.0±4.6	21.4±4.7	21.0±4.2	F=0741	p=0478
目標設定スキル	2011年	28.1±4.9	29.0±5.6	31.0±5.7	F=4477	p=0013*	28.7±5.2	29.0±6.0	30.7±4.9	F=1891	p=0154
	2012年	28.5±6.1	29.6±5.3	29.2±6.3	F=0684	p=0506	28.7±5.1	29.0±4.5	27.8±4.7	F=0799	p=0451
	2013年	32.1±5.7	29.6±5.5	26.1±5.8	F=16610	p<0000**	28.9±5.2	27.4±6.0	27.5±4.8	F=1771	p=0173
メディアリテラシー	2011年	49.3±8.4	50.7±6.9	51.3±8.1	F=1100	p=0335	50.3±8.1	50.3±8.4	51.2±9.9	F=0165	p=0848
	2012年	52.9±7.7	54.8±8.3	52.1±10.0	F=1680	p=0189	54.2±7.3	54.0±7.2	52.5±6.4	F=0744	p=0477
	2013年	58.3±7.8	52.8±8.9	50.0±10.5	F=15453	p<0000**	54.8±9.0	53.5±7.7	48.5±8.8	F=7932	p<0000**
心の健康度	2011年	16.6±2.8	16.7±3.0	16.4±3.5	F=0127	p=0881	15.7±3.8	15.4±3.9	16.2±3.3	F=0531	p=0589
	2012年	16.8±3.4	16.3±3.7	16.1±4.0	F=0759	p=0469	15.8±3.3	15.4±3.5	16.2±3.1	F=0702	p=0497
	2013年	17.2±3.1	16.7±3.1	16.5±3.0	F=0961	p=0384	16.4±3.2	15.5±4.2	16.6±3.1	F=1527	p=0220

注: *はt検定による有意確率が0.01<p≤0.05, **はp≤0.01であることを示す

表5-2 学年別, 性別, 調査年別にみたセルフエスティーム, ライフスキル, メディアリテラシーおよび心の健康度の得点<中学校1年生>

調査項目		中学校1年生男子				中学校1年生女子			
		平均値±標準偏差		t 値	p 値	平均値±標準偏差		t 値	p 値
		Y 中	T 中			Y 中	T 中		
友人に関する自尊心	2011年	20.1±3.7	20.3±3.6	t=0.470	p=0.639	18.7±3.6	18.5±4.0	t=0.331	p=0.741
	2012年	18.7±4.3	19.5±3.8	t=1.267	p=0.206	17.4±3.3	18.2±3.9	t=1.497	p=0.136
	2013年	20.2±4.0	20.0±4.0	t=0.236	p=0.814	17.9±3.3	18.5±3.5	t=1.156	p=0.249
家族に関する自尊心	2011年	23.6±3.5	23.6±3.6	t=0.158	p=0.874	22.8±4.6	22.8±4.3	t=0.046	p=0.963
	2012年	21.9±4.6	22.1±4.3	t=0.404	p=0.687	20.5±4.8	21.7±4.8	t=1.792	p=0.075
	2013年	21.7±4.4	23.3±4.4	t=2.445	p=0.015 *	21.6±4.5	21.1±4.7	t=0.778	p=0.438
全般的自尊心	2011年	20.5±3.8	20.7±3.8	t=0.303	p=0.762	19.8±4.1	19.7±4.1	t=0.090	p=0.928
	2012年	19.7±4.2	19.5±3.9	t=0.408	p=0.683	17.9±3.8	18.4±4.3	t=0.900	p=0.369
	2013年	20.1±4.0	20.2±4.1	t=0.200	p=0.842	19.2±4.2	18.4±4.1	t=1.142	p=0.255
向社会的スキル	2011年	21.0±3.4	21.4±3.5	t=0.964	p=0.336	21.7±2.9	22.0±3.1	t=0.634	p=0.527
	2012年	20.7±3.6	20.3±3.8	t=0.844	p=0.399	20.9±3.5	22.0±3.0	t=2.462	p=0.015 *
	2013年	19.9±3.8	21.4±3.4	t=3.103	p=0.002 **	21.4±3.1	23.4±2.5	t=4.587	p<0.000 **
引っ込み思案行動	2011年	6.7±2.6	6.0±2.2	t=2.176	p=0.031 *	7.1±2.3	7.0±2.6	t=0.217	p=0.828
	2012年	6.9±3.1	6.2±2.2	t=1.885	p=0.061	6.9±2.5	7.2±2.8	t=0.887	p=0.376
	2013年	6.7±2.7	6.2±2.7	t=1.423	p=0.156	7.1±2.6	7.0±2.6	t=0.262	p=0.794
攻撃行動	2011年	7.6±2.2	7.6±2.2	t=0.294	p=0.769	7.3±2.4	7.1±2.2	t=0.573	p=0.567
	2012年	7.6±2.4	8.5±2.5	t=2.495	p=0.013 *	8.2±2.3	7.6±2.3	t=2.027	p=0.044 *
	2013年	8.2±2.4	7.3±2.1	t=2.966	p=0.003 **	7.2±2.2	6.6±1.9	t=2.102	p=0.037 *
サポート希求	2011年	5.4±1.7	5.7±1.6	t=1.338	p=0.182	5.3±1.6	5.8±1.7	t=2.212	p=0.028 *
	2012年	5.2±1.8	5.0±1.8	t=0.824	p=0.411	5.4±1.8	5.3±1.9	t=0.187	p=0.852
	2013年	5.1±1.8	5.2±1.8	t=0.768	p=0.443	5.6±1.8	6.0±1.7	t=1.576	p=0.117
問題解決	2011年	5.7±1.6	5.9±1.4	t=0.848	p=0.397	5.7±1.5	6.1±1.3	t=2.227	p=0.027 *
	2012年	5.6±1.5	5.7±1.6	t=0.357	p=0.722	5.5±1.6	5.6±1.7	t=0.511	p=0.610
	2013年	5.4±1.7	5.8±1.5	t=1.413	p=0.159	5.8±1.2	6.5±1.3	t=3.589	p<0.000 **
気分転換	2011年	6.2±1.6	6.4±1.5	t=0.868	p=0.387	5.6±1.6	5.5±1.6	t=0.677	p=0.499
	2012年	5.9±1.7	5.9±1.7	t=0.021	p=0.984	5.0±1.7	4.8±1.7	t=0.743	p=0.458
	2013年	6.0±1.5	6.0±1.6	t=0.173	p=0.863	5.4±1.6	4.5±1.6	t=3.640	p<0.000 **
情動的回避	2011年	4.3±1.6	4.0±1.7	t=1.179	p=0.240	4.9±1.6	5.1±1.7	t=1.031	p=0.304
	2012年	4.3±1.7	4.1±1.5	t=1.189	p=0.236	5.2±1.6	5.3±1.7	t=0.238	p=0.812
	2013年	4.2±1.7	3.9±1.6	t=1.287	p=0.200	5.4±1.8	5.3±1.8	t=0.501	p=0.617
行動的回避	2011年	3.5±1.4	3.4±1.4	t=0.601	p=0.549	3.9±1.5	3.5±1.2	t=2.110	p=0.036 *
	2012年	3.4±1.3	3.4±1.4	t=0.145	p=0.885	3.9±1.5	3.7±1.4	t=1.251	p=0.212
	2013年	3.3±1.3	3.1±1.3	t=0.870	p=0.385	4.2±1.4	3.7±1.5	t=2.159	p=0.032 *
認知的回避	2011年	4.7±1.3	4.5±1.3	t=1.412	p=0.159	4.7±1.5	4.7±1.5	t=0.035	p=0.972
	2012年	4.6±1.3	4.7±1.6	t=0.734	p=0.464	4.8±1.6	4.9±1.7	t=0.389	p=0.698
	2013年	5.0±1.5	4.8±1.5	t=0.802	p=0.424	4.7±1.4	4.6±1.6	t=0.453	p=0.651
意志決定スキル	2011年	21.3±4.7	21.1±4.4	t=0.435	p=0.664	20.6±4.8	21.7±4.5	t=1.697	p=0.091
	2012年	20.7±5.0	20.4±5.1	t=0.425	p=0.671	19.5±4.5	19.9±4.7	t=0.504	p=0.615
	2013年	19.3±5.0	21.3±4.2	t=3.112	p=0.002 **	19.9±4.5	21.1±4.4	t=1.658	p=0.099
目標設定スキル	2011年	28.6±5.6	29.0±5.2	t=0.543	p=0.588	27.1±6.1	28.1±5.5	t=1.229	p=0.221
	2012年	27.6±5.4	27.6±5.4	t=0.004	p=0.997	26.6±5.4	26.5±5.7	t=0.208	p=0.835
	2013年	26.9±5.8	28.8±6.1	t=2.310	p=0.022 *	26.8±5.7	27.1±4.9	t=0.431	p=0.667
メディアリテラシー	2011年	50.1±8.3	49.1±8.1	t=0.824	p=0.411	53.0±9.3	51.2±7.0	t=1.560	p=0.120
	2012年	54.1±10.3	52.0±8.5	t=1.584	p=0.115	54.9±9.4	52.1±7.4	t=2.327	p=0.021 *
	2013年	52.9±10.4	55.0±10.2	t=1.374	p=0.171	55.9±9.1	54.0±8.5	t=1.409	p=0.161
心の健康度	2011年	16.2±3.6	17.0±2.8	t=1.712	p=0.088	15.4±3.7	16.4±3.3	t=1.966	p=0.051
	2012年	15.6±3.9	15.8±3.6	t=0.398	p=0.691	14.6±3.6	15.1±4.0	t=0.967	p=0.334
	2013年	16.0±3.9	16.5±3.5	t=1.077	p=0.283	15.4±3.5	15.6±3.8	t=0.432	p=0.666

注：*はt検定による有意確率が0.01<p≤0.05, **はp≤0.01であることを示す

表5-3 学年別, 性別, 調査年別にみたセルフエスティーム, ライフスキル, メディアリテラシーおよび心の健康度の得点<中学校2年生>

調査項目		中学校2年生男子				中学校2年生女子			
		平均値±標準偏差		t 値	p 値	平均値±標準偏差		t 値	p 値
		Y 中	T 中			Y 中	T 中		
友人に関する自尊心	2011年	18.9±4.1	19.0±3.8	t=0.251	p=0.802	17.9±3.7	17.7±3.7	t=0.322	p=0.748
	2012年	18.7±4.2	18.5±3.9	t=0.405	p=0.686	17.6±3.6	17.8±3.6	t=0.317	p=0.751
	2013年	19.3±4.0	19.0±3.7	t=0.697	p=0.486	17.8±3.7	17.6±3.6	t=0.357	p=0.722
家族に関する自尊心	2011年	21.9±3.9	21.8±4.1	t=0.293	p=0.770	20.6±4.5	21.0±4.5	t=0.605	p=0.546
	2012年	21.7±4.3	21.6±4.4	t=0.126	p=0.900	19.7±4.4	20.2±4.3	t=0.801	p=0.425
	2013年	21.9±4.3	22.0±4.5	t=0.193	p=0.847	20.8±4.6	21.7±4.9	t=1.260	p=0.209
全般的自尊心	2011年	19.5±3.6	19.1±3.9	t=0.793	p=0.429	17.4±3.7	17.3±3.6	t=0.251	p=0.802
	2012年	19.2±4.2	19.3±4.0	t=0.206	p=0.837	16.8±4.0	17.0±3.7	t=0.473	p=0.637
	2013年	19.2±3.8	19.1±4.3	t=0.282	p=0.778	17.7±4.0	18.1±4.3	t=0.607	p=0.545
向社会的スキル	2011年	20.7±3.8	20.5±3.6	t=0.391	p=0.696	21.7±3.1	21.4±3.1	t=0.752	p=0.453
	2012年	20.2±3.5	20.2±3.4	t=0.049	p=0.961	21.7±3.5	21.6±2.9	t=0.224	p=0.823
	2013年	21.4±3.1	20.6±3.4	t=1.635	p=0.104	21.8±3.0	22.5±3.3	t=1.593	p=0.113
引っ込み思案行動	2011年	6.5±2.7	6.9±2.6	t=1.012	p=0.313	7.1±2.3	6.8±2.4	t=0.841	p=0.402
	2012年	6.9±2.6	6.7±2.3	t=0.460	p=0.646	7.3±2.5	6.9±2.5	t=1.067	p=0.287
	2013年	6.8±2.7	6.2±2.4	t=1.780	p=0.077	7.4±2.8	7.2±2.7	t=0.473	p=0.636
攻撃行動	2011年	7.7±2.5	7.8±2.4	t=0.442	p=0.659	7.3±2.3	7.5±1.9	t=0.622	p=0.535
	2012年	7.6±2.0	7.7±1.9	t=0.664	p=0.507	7.7±2.3	7.4±1.8	t=0.774	p=0.440
	2013年	7.6±2.1	8.0±2.3	t=1.568	p=0.118	7.7±2.3	6.9±2.1	t=2.508	p=0.013 *
サポート希求	2011年	5.0±1.8	5.3±1.7	t=1.465	p=0.144	5.4±1.7	5.0±1.8	t=1.564	p=0.120
	2012年	4.8±1.8	4.9±1.5	t=0.384	p=0.701	5.3±1.7	5.3±1.7	t=0.056	p=0.955
	2013年	5.2±1.7	5.0±1.7	t=0.754	p=0.452	5.1±1.8	5.5±1.7	t=1.679	p=0.095
問題解決	2011年	5.7±1.6	5.8±1.5	t=0.719	p=0.473	6.1±1.6	5.8±1.6	t=1.096	p=0.275
	2012年	5.5±1.6	5.5±1.6	t=0.056	p=0.956	6.0±1.4	6.0±1.5	t=0.259	p=0.796
	2013年	5.8±1.7	5.8±1.5	t=0.177	p=0.860	5.5±1.6	6.0±1.7	t=1.963	p=0.051
気分転換	2011年	5.9±1.6	5.7±1.7	t=1.037	p=0.301	4.8±1.6	4.5±1.6	t=1.122	p=0.263
	2012年	5.6±1.6	5.4±2.0	t=1.015	p=0.311	4.4±1.6	4.6±1.7	t=0.690	p=0.491
	2013年	5.8±1.8	5.9±1.7	t=0.424	p=0.672	4.6±1.7	4.6±1.6	t=0.032	p=0.975
情動的回避	2011年	4.0±1.5	3.9±1.6	t=0.609	p=0.543	5.6±1.7	5.3±1.7	t=1.292	p=0.198
	2012年	4.2±1.5	4.3±1.6	t=0.500	p=0.617	6.1±1.6	5.5±1.8	t=2.137	p=0.034 *
	2013年	4.4±1.7	4.0±1.4	t=2.138	p=0.034 *	5.7±1.7	5.6±1.7	t=0.524	p=0.601
行動的回避	2011年	3.3±1.3	3.4±1.3	t=0.218	p=0.827	3.6±1.6	3.7±1.5	t=0.450	p=0.653
	2012年	3.2±1.3	3.4±1.3	t=1.053	p=0.293	3.6±1.3	3.5±1.3	t=0.391	p=0.696
	2013年	3.4±1.5	3.4±1.4	t=0.231	p=0.817	3.8±1.5	3.6±1.4	t=1.243	p=0.215
認知的回避	2011年	4.6±1.5	4.5±1.4	t=0.530	p=0.597	4.4±1.6	4.8±1.5	t=2.005	p=0.046 *
	2012年	4.8±1.5	4.4±1.4	t=1.831	p=0.069	4.3±1.7	4.7±1.5	t=1.636	p=0.104
	2013年	4.7±1.6	4.6±1.6	t=0.505	p=0.614	4.8±1.6	4.9±1.6	t=0.346	p=0.729
意志決定スキル	2011年	19.8±4.8	20.7±4.6	t=1.492	p=0.137	20.6±4.7	20.0±4.4	t=0.850	p=0.397
	2012年	20.2±4.6	20.4±4.4	t=0.300	p=0.765	20.7±4.8	20.1±4.5	t=0.928	p=0.355
	2013年	20.6±4.9	20.7±5.0	t=0.106	p=0.916	20.0±4.8	20.7±5.1	t=1.003	p=0.317
目標設定スキル	2011年	26.6±5.7	27.2±5.4	t=0.750	p=0.454	25.9±5.2	25.8±5.2	t=0.216	p=0.829
	2012年	27.1±5.3	27.6±4.8	t=0.702	p=0.483	26.6±4.9	25.9±5.2	t=0.986	p=0.325
	2013年	27.7±5.4	27.6±6.0	t=0.083	p=0.934	26.3±5.6	27.0±5.9	t=0.895	p=0.372
メディアリテラシー	2011年	51.2±7.9	51.1±9.8	t=0.059	p=0.953	51.5±7.7	50.5±7.7	t=0.872	p=0.384
	2012年	52.6±9.2	51.8±8.9	t=0.611	p=0.542	54.2±7.4	52.0±7.8	t=1.846	p=0.067
	2013年	56.8±8.4	52.4±8.5	t=3.768	p<0.000 **	55.1±9.5	52.1±8.9	t=2.302	p=0.022 *
心の健康度	2011年	15.8±3.5	15.4±3.7	t=0.770	p=0.442	14.3±3.7	15.0±3.9	t=1.161	p=0.247
	2012年	15.3±3.9	15.5±3.7	t=0.408	p=0.683	14.2±3.7	14.9±3.7	t=1.159	p=0.248
	2013年	15.9±3.6	16.2±3.6	t=0.697	p=0.486	14.7±3.5	15.6±3.7	t=1.834	p=0.068

注：*はt検定による有意確率が0.01<p≤0.05, **はp≤0.01であることを示す

表5-4 学年別, 性別, 調査年別にみたセルフエスティーム, ライフスキル, メディアリテラシーおよび心の健康度の得点<中学校3年生>

調査項目		中学校3年生男子				中学校3年生女子			
		平均値±標準偏差		t 値	p 値	平均値±標準偏差		t 値	p 値
		Y 中	T 中			Y 中	T 中		
友人に関する自尊心	2011年	19.0±3.5	18.4±3.6	t=1.342	p=0.181	17.3±3.6	17.2±2.7	t=-0.060	p=0.952
	2012年	18.9±3.7	18.9±3.7	t=0.019	p=0.985	18.0±3.2	17.5±3.2	t=-0.850	p=0.397
	2013年	19.1±4.2	18.5±4.1	t=-0.942	p=0.347	17.8±3.7	18.3±4.2	t=-0.785	p=0.434
家族に関する自尊心	2011年	21.3±3.9	20.6±3.7	t=1.281	p=0.202	21.1±4.6	21.3±4.5	t=-0.286	p=0.775
	2012年	21.3±4.0	21.1±3.9	t=-0.462	p=0.645	20.7±4.1	20.7±4.3	t=-0.028	p=0.978
	2013年	21.8±4.3	21.6±4.5	t=-0.348	p=0.728	19.9±4.9	21.2±4.7	t=1.685	p=0.094
全般的自尊心	2011年	18.9±3.8	19.0±3.7	t=0.160	p=0.873	17.4±3.9	17.8±4.0	t=-0.702	p=0.484
	2012年	19.0±3.8	19.7±3.7	t=1.279	p=0.203	18.1±3.7	18.3±3.7	t=-0.423	p=0.673
	2013年	19.3±4.2	19.8±4.2	t=-0.735	p=0.463	17.5±4.2	18.1±4.6	t=-0.801	p=0.424
向社会的スキル	2011年	21.0±2.9	21.2±3.3	t=0.564	p=0.573	21.8±3.3	21.8±2.7	t=-0.002	p=0.998
	2012年	21.3±3.3	22.1±3.7	t=1.475	p=0.142	23.0±3.0	22.3±2.6	t=1.606	p=0.110
	2013年	21.8±3.5	20.7±4.3	t=-2.039	p=0.043 *	22.9±3.0	22.8±3.1	t=-0.210	p=0.834
引っ込み思案行動	2011年	6.7±2.6	6.6±2.4	t=0.093	p=0.926	7.5±2.4	7.3±2.5	t=-0.553	p=0.581
	2012年	6.8±2.6	6.8±2.4	t=0.004	p=0.997	7.0±2.4	7.1±2.1	t=-0.400	p=0.690
	2013年	6.9±2.7	6.9±2.9	t=-0.096	p=0.924	7.5±2.5	6.6±2.6	t=2.085	p=0.039 *
攻撃行動	2011年	7.6±1.9	7.4±2.2	t=0.780	p=0.436	7.5±2.2	7.8±2.5	t=-0.917	p=0.361
	2012年	7.7±2.3	7.5±2.5	t=0.439	p=0.661	7.0±2.0	7.8±2.2	t=2.234	p=0.027 *
	2013年	7.5±2.0	7.6±2.3	t=-0.287	p=0.774	7.1±2.3	6.7±2.0	t=1.066	p=0.288
サポート希求	2011年	4.9±1.8	5.1±1.7	t=-0.861	p=0.390	5.5±1.8	5.0±1.9	t=1.720	p=0.087
	2012年	5.3±1.6	4.9±1.8	t=1.766	p=0.079	5.9±1.9	5.1±1.8	t=2.591	p=0.010 **
	2013年	5.4±1.8	4.9±1.8	t=1.841	p=0.067	5.6±1.6	5.2±1.9	t=1.632	p=0.105
問題解決	2011年	5.7±1.5	5.9±1.5	t=1.045	p=0.298	6.2±1.5	5.7±1.6	t=2.123	p=0.035 *
	2012年	5.5±1.6	6.1±1.4	t=2.575	p=0.011 *	6.2±1.3	5.9±1.6	t=1.670	p=0.097
	2013年	5.7±1.7	5.6±1.7	t=-0.419	p=0.676	6.1±1.4	6.1±1.5	t=-0.315	p=0.753
気分転換	2011年	5.9±1.7	5.6±1.6	t=1.304	p=0.194	4.7±1.6	4.2±1.5	t=2.276	p=0.024 *
	2012年	6.1±1.6	5.8±1.7	t=1.004	p=0.317	4.7±1.6	4.1±1.6	t=2.441	p=0.016 *
	2013年	5.8±1.5	5.3±1.8	t=2.228	p=0.027 *	4.5±1.6	4.3±1.5	t=2.859	p=0.392
情動的回避	2011年	4.0±1.4	4.0±1.4	t=-0.234	p=0.815	5.6±1.6	5.4±1.5	t=-0.514	p=0.608
	2012年	4.4±1.6	4.6±1.6	t=-0.941	p=0.348	5.4±1.7	5.6±1.6	t=-0.863	p=0.389
	2013年	4.3±1.6	4.0±1.6	t=1.144	p=0.254	6.1±1.6	5.5±2.0	t=-2.095	p=0.038 *
行動的回避	2011年	3.2±1.2	3.5±1.3	t=-1.808	p=0.072	3.7±1.4	3.5±1.3	t=1.364	p=0.174
	2012年	3.3±1.4	3.4±1.4	t=-0.304	p=0.762	3.6±1.4	3.5±1.4	t=-0.384	p=0.702
	2013年	3.2±1.3	3.6±1.6	t=-1.912	p=0.057	3.4±1.3	3.5±1.4	t=-0.144	p=0.886
認知的回避	2011年	4.8±1.4	4.6±1.4	t=0.771	p=0.442	4.6±1.5	4.8±1.4	t=-0.632	p=0.528
	2012年	4.9±1.6	4.6±1.7	t=0.950	p=0.343	4.7±1.4	4.7±1.5	t=-0.214	p=0.831
	2013年	5.0±1.5	4.5±1.5	t=2.438	p=0.016 *	4.6±1.5	4.9±1.7	t=-1.390	p=0.166
意志決定スキル	2011年	20.5±4.8	21.6±4.7	t=-1.691	p=0.092	21.3±4.2	20.5±4.8	t=1.219	p=0.224
	2012年	21.1±4.4	21.8±4.7	t=-1.087	p=0.279	21.3±4.2	19.6±5.2	t=2.347	p=0.020 *
	2013年	20.6±5.6	20.0±4.7	t=0.745	p=0.457	21.8±4.5	21.0±4.8	t=1.063	p=0.289
目標設定スキル	2011年	26.9±5.4	28.6±4.9	t=-2.214	p=0.028 *	27.6±5.1	26.1±4.8	t=2.164	p=0.032 *
	2012年	27.7±4.7	28.6±5.5	t=-1.222	p=0.223	28.1±5.2	25.5±5.8	t=3.054	p=0.003 **
	2013年	27.7±6.1	26.9±6.0	t=0.913	p=0.363	27.4±5.3	26.8±6.0	t=0.635	p=0.526
メディアリテラシー	2011年	52.4±8.2	49.8±8.1	t=2.280	p=0.024 *	52.1±7.3	50.1±6.3	t=1.869	p=0.063
	2012年	55.5±8.9	53.1±9.3	t=1.818	p=0.071	53.7±8.2	52.3±6.6	t=1.223	p=0.223
	2013年	54.8±9.1	52.7±9.5	t=1.628	p=0.105	55.3±9.3	53.1±8.5	t=1.616	p=0.108
心の健康度	2011年	15.4±3.3	16.0±3.0	t=-1.325	p=0.187	14.6±3.6	15.3±3.6	t=-1.262	p=0.208
	2012年	14.9±4.0	15.8±3.1	t=-1.626	p=0.106	16.1±3.3	15.7±2.9	t=-0.945	p=0.346
	2013年	15.2±4.0	15.2±3.8	t=0.001	p=0.999	14.2±3.8	15.7±3.7	t=2.578	p=0.011 *

注: *はt検定による有意確率が0.01<p≤0.05, **はp≤0.01であることを示す

はY中はT中より得点が有意に高かったものの、2013年では学校間に差は認められなかった。他の調査項目については、いずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

中学1年生女子では、社会的スキルの「向社会的スキル」、「攻撃行動」について、2011年は学校間に有意差は認められなかったものの、2012年、2013年では「向社会的スキル」はY中がT中より得点が有意に低く、「攻撃行動」はY中が有意に高かった。ストレス対処スキルの「サポート希求」については、2011年ではY中がT中より得点が有意に低かったものの、2012年、2013年では学校間に差は認められなかった。ストレス対処スキルの「問題解決」、「行動的回避」については、2011年、2013年は「問題解決」はY中がT中より得点が有意に低く、「行動的回避」はY中が有意に高かった。また、メディアリテラシーについては、2012年はY中の得点が有意に高かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。他の調査項目については、いずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

中学2年生男子では、ストレス対処スキルの「情動的回避」、メディアリテラシーに関して、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差は認められなかったものの、2013年はY中がT中より得点が有意に高かった。

中学2年生女子では、社会的スキルの「攻撃行動」、メディアリテラシーは、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY中がT中より得点が有意に高かった。ストレス対処スキルの「情動的回避」は、2012年はY中がT中より得点が有意に高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。「認知的回避」については、2011年はY中がT中より得点が有意に低かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。他の調査

項目については、いずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

中学校3年生男子では、社会的スキルの「向社会的スキル」、ストレス対処スキルの「気分転換」、「認知的回避」について、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY中がT中より得点が有意に高かった。ストレス対処スキルの「問題解決」は、2012年ではY中の得点が有意に低かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。また、目標設定スキルに関しては2011年ではY中の得点が有意に低かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。メディアリテラシーに関しては、2011年はY中の得点が有意に高かったものの、2013年では学校間に差は認められなかった。他の調査項目については、いずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

中学校3年生女子では、社会的スキルの「引込み思案行動」、ストレス対処スキルの「情動的回避」は、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY中がT中より得点が有意に高かった。社会的スキルの「攻撃行動」、「サポート希求」は、2012年では「攻撃行動」はY中がT中より得点が低く、「サポート希求」はY中が高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。また、ストレス対処スキルの「問題解決」、目標設定スキルは、2011年ではY中がT中より得点が有意に高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。ストレス対処スキルの「気分転換」は、2011年、2012年はY中がT中より得点が有意に高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。意志決定スキルは、2012年はY中がT中より有意に得点が高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。心の健康度は、2011年、2012年は学校間に有意差が認められ

なかったものの、2013年はY中がT中より得点が有意に低かった。他の調査項目については、いずれの年度においても学校間に有意差は認められなかった。

2) 飲酒、喫煙者率

学年別、性別、調査年別にみた、飲酒、喫煙者率を表6に示した。

小学校6年生男子では、生涯飲酒経験について、2012年はY小がT小、TN小より経験者率が高かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。

小学校6年生女子では、月飲酒経験について、2011年、2012年には学校間に有意差が認められなかったものの、2013年の経験者率はY小がT小、TN小より有意に高かった。

中学校1年生男子では、生涯飲酒経験について、2011年、2012年は学校間に有意差が認められなかったものの、2013年の経験者率はY中がT中より有意に高かった。生涯喫煙経験については、2011年の経験率はY中がT中より有意に低かったものの、2013年はY中が有意に高かった。

中学校1年生女子では、いずれの場合においても学校間に有意差は認められなかった。

中学校2年生男子では、生涯飲酒経験について、2011年の経験者率はY中がT中より有意に高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。また、生涯喫煙経験者については、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められなかったものの、2013年の経験者率は、Y中がT中より有意に低かった。

中学校2年生女子では、生涯喫煙経験者率は、2011年、2012年にはいずれも有意差が認められなかったものの、2013年の経験者率はY中がT中より有意に低かった。

中学校3年生男子では、生涯飲酒経験者率は、2011年、2012年は学校間に有意差が認められな

かったものの、2013年の経験者率はY中がT中より有意に高かった。また、月喫煙者率については、2012年はY中がT中より経験率が有意に低かったものの、2013年では学校間に差は認められなかった。

中学校3年生女子では、月飲酒経験者率は、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY中がT中より経験率が有意に高かった。

3) 飲酒、喫煙に関する自己効力感

学年別、性別、調査年別にみた飲酒、喫煙に関する自己効力感の各中央値を表7に示した。

小学校6年生男子では、20歳まで飲酒しない自信については、2011年、2012年はY小がT小、TN小より自己効力感が有意に低かったものの、2013年では学校間に有意差が認められなかった。また、20歳まで喫煙しない自信については、2011年、2012年は学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY小がT小、TN小より有意に高かった。

小学校6年生女子では、酒の勧めを断る自信について、2012年はY小がT小、TN小より自己効力感が有意に低かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。

中学校1年生男子では、20歳まで飲酒しない自信、酒の勧めを断る自信は、2011年、2012年にはいずれも学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY中がT中より自己効力感が低かった。また、たばこの勧めを断る自信は、2011年はY中がT中より自己効力感が高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。

中学校1年生女子では、たばこの勧めを断る自信について、2011年、2012年は学校間に有意差は認められなかったものの、2013年においてはY中がT中より自己効力感が有意に低かった。

中学校2年生男子では、20歳まで飲酒しない自

表6 学年別, 性別, 調査年別にみた飲酒, 喫煙者率 (%)

学年	調査項目	小学校男子					小学校女子						
		Y小	T小	TN小	χ^2 値	p値	Y小	T小	TN小	χ^2 値	p値		
6年生	生涯飲酒経験者率	2011年	47.2	21.6	54.0	$\chi^2=16.427$	p<0.000**	25.6	33.8	41.0	$\chi^2=3.110$	p=0.211	
		2012年	55.8	21.9	37.3	$\chi^2=19.941$	p<0.000**	44.0	33.8	35.1	$\chi^2=1.893$	p=0.388	
		2013年	33.7	37.7	44.4	$\chi^2=1.517$	p=0.468	31.8	31.0	27.3	$\chi^2=0.296$	p=0.862	
	月飲酒者率	2011年	14.6	8.1	8.0	$\chi^2=2.303$	p=0.316	4.9	5.8	10.3	$\chi^2=1.341$	p=0.511	
		2012年	13.7	4.1	5.9	$\chi^2=5.431$	p=0.066	10.7	4.4	0.0	$\chi^2=5.629$	p=0.060	
		2013年	4.2	7.2	6.7	$\chi^2=0.771$	p=0.680	11.4	5.2	0.0	$\chi^2=6.308$	p=0.043*	
	生涯喫煙経験者率	2011年	6.7	5.5	4.0	$\chi^2=0.457$	p=0.796	0.0	2.9	2.6	$\chi^2=2.330$	p=0.312	
		2012年	12.8	4.1	3.9	$\chi^2=5.674$	p=0.059	2.4	2.9	2.7	$\chi^2=0.052$	p=0.974	
		2013年	2.1	4.3	6.7	$\chi^2=1.802$	p=0.406	3.4	5.2	4.4	$\chi^2=0.280$	p=0.869	
	月喫煙者率	2011年	2.2	0.0	2.0	$\chi^2=1.612$	p=0.447	0.0	0.0	0.0	-	-	
		2012年	1.1	0.0	2.0	$\chi^2=1.297$	p=0.523	1.2	0.0	0.0	$\chi^2=1.242$	p=0.537	
		2013年	1.1	1.4	4.4	$\chi^2=1.990$	p=0.370	1.1	0.0	0.0	$\chi^2=1.177$	p=0.555	
1年生	生涯飲酒経験者率	2011年	38.4	43.0		$\chi^2=0.475$	p=0.491	41.4	38.5		$\chi^2=0.199$	p=0.656	
		2012年	44.3	53.3		$\chi^2=1.740$	p=0.187	45.9	54.6		$\chi^2=1.578$	p=0.209	
		2013年	45.8	29.4		$\chi^2=5.939$	p=0.015*	43.8	39.6		$\chi^2=0.308$	p=0.579	
	月飲酒者率	2011年	15.2	9.9		$\chi^2=1.386$	p=0.239	9.9	8.7		$\chi^2=0.100$	p=0.751	
		2012年	9.3	13.3		$\chi^2=0.865$	p=0.352	11.9	11.2		$\chi^2=0.025$	p=0.875	
		2013年	11.5	5.5		$\chi^2=2.440$	p=0.118	13.9	6.6		$\chi^2=2.525$	p=0.112	
	生涯喫煙経験者率	2011年	4.0	14.3		$\chi^2=6.516$	p=0.011*	5.4	11.5		$\chi^2=2.697$	p=0.101	
		2012年	7.4	13.3		$\chi^2=1.904$	p=0.168	9.2	13.3		$\chi^2=0.874$	p=0.350	
		2013年	8.3	0.9		$\chi^2=6.688$	p=0.014*	10.0	6.6		$\chi^2=0.657$	p=0.418	
	月喫煙者率	2011年	1.0	5.0		$\chi^2=2.791$	p=0.131	0.9	3.8		$\chi^2=2.080$	p=0.198	
		2012年	3.2	1.7		$\chi^2=0.505$	p=0.657	2.8	5.1		$\chi^2=0.767$	p=0.481	
		2013年	2.1	0.0		$\chi^2=2.314$	p=0.216	3.8	2.2		$\chi^2=0.379$	p=0.664	
	2年生	生涯飲酒経験者率	2011年	49.5	33.3		$\chi^2=5.778$	p=0.016*	39.6	47.1		$\chi^2=1.007$	p=0.316
			2012年	42.6	39.1		$\chi^2=0.252$	p=0.616	44.8	51.8		$\chi^2=0.829$	p=0.363
			2013年	40.8	52.2		$\chi^2=2.740$	p=0.098	52.8	52.1		$\chi^2=0.011$	p=0.915
		月飲酒者率	2011年	14.6	11.7		$\chi^2=0.382$	p=0.537	12.1	15.1		$\chi^2=0.346$	p=0.556
			2012年	8.5	13.6		$\chi^2=1.331$	p=0.249	18.4	18.1		$\chi^2=0.003$	p=0.957
			2013年	11.2	13.0		$\chi^2=0.163$	p=0.686	11.3	10.4		$\chi^2=0.042$	p=0.837
		生涯喫煙経験者率	2011年	18.4	10.9		$\chi^2=2.430$	p=0.119	14.3	11.8		$\chi^2=0.246$	p=0.620
			2012年	9.6	10.9		$\chi^2=0.098$	p=0.755	13.8	15.7		$\chi^2=0.118$	p=0.731
			2013年	6.1	14.8		$\chi^2=4.120$	p=0.042*	6.6	19.8		$\chi^2=7.813$	p=0.005**
		月喫煙者率	2011年	1.0	4.6		$\chi^2=2.554$	p=0.213	7.7	2.4		$\chi^2=2.582$	p=0.171
			2012年	1.1	6.4		$\chi^2=3.723$	p=0.073	4.6	1.2		$\chi^2=1.713$	p=0.368
			2013年	1.0	2.6		$\chi^2=0.724$	p=0.626	1.9	5.2		$\chi^2=1.628$	p=0.262
3年生	生涯飲酒経験者率	2011年	49.5	39.8		$\chi^2=1.885$	p=0.170	48.4	46.2		$\chi^2=0.086$	p=0.769	
		2012年	50.0	48.4		$\chi^2=0.045$	p=0.832	48.3	54.5		$\chi^2=0.688$	p=0.407	
		2013年	52.0	36.5		$\chi^2=4.920$	p=0.027*	45.5	51.3		$\chi^2=0.564$	p=0.453	
	月飲酒者率	2011年	15.1	13.9		$\chi^2=0.055$	p=0.815	7.5	10.8		$\chi^2=0.583$	p=0.445	
		2012年	12.8	14.7		$\chi^2=0.144$	p=0.705	9.2	13.6		$\chi^2=0.852$	p=0.356	
		2013年	10.2	13.5		$\chi^2=0.511$	p=0.475	16.1	6.3		$\chi^2=4.004$	p=0.045*	
	生涯喫煙経験者率	2011年	12.9	19.4		$\chi^2=1.558$	p=0.212	8.6	10.8		$\chi^2=0.246$	p=0.620	
		2012年	12.8	18.1		$\chi^2=0.958$	p=0.328	9.2	15.7		$\chi^2=1.718$	p=0.190	
		2013年	10.2	14.7		$\chi^2=0.926$	p=0.336	12.6	11.3		$\chi^2=0.077$	p=0.782	
	月喫煙者率	2011年	3.2	8.3		$\chi^2=2.322$	p=0.128	2.2	4.3		$\chi^2=0.689$	p=0.682	
		2012年	0.0	8.5		$\chi^2=7.660$	p=0.007**	0.0	1.1		$\chi^2=0.983$	p=1.000	
		2013年	2.0	6.9		$\chi^2=2.704$	p=0.171	3.5	0.0		$\chi^2=2.876$	p=0.246	

注1: *は χ^2 検定による有意確率が $0.01 < p \leq 0.05$, **は $p \leq 0.01$ であることを示す

注2: 表中の数字は飲酒・喫煙行動をとった者の割合 (%) を示す

表7 学年別, 性別, 調査年別にみた飲酒, 喫煙に関する自己効力感

		小学校 6 年生男子					小学校 6 年生女子				
調査項目		Y小	T小	TN小	χ^2 値	p 値	Y小	T小	TN小	χ^2 値	p 値
20歳まで飲酒しない 自信	2011年	4.18	4.57	4.49	$\chi^2=6.910$	p=0.032*	4.45	4.46	4.29	$\chi^2=1.125$	p=0.570
	2012年	4.17	4.63	4.28	$\chi^2=11.455$	p=0.003**	4.22	4.53	4.36	$\chi^2=5.501$	p=0.064
	2013年	4.55	4.38	4.19	$\chi^2=5.117$	p=0.077	4.35	4.47	4.39	$\chi^2=0.795$	p=0.672
酒の勧めを拒否する 自信	2011年	4.15	4.46	4.37	$\chi^2=4.312$	p=0.116	4.17	4.36	4.45	$\chi^2=2.334$	p=0.311
	2012年	4.25	4.48	4.18	$\chi^2=5.468$	p=0.065	4.00	4.43	4.24	$\chi^2=7.214$	p=0.027*
	2013年	4.48	4.38	4.15	$\chi^2=4.541$	p=0.103	4.19	4.37	4.13	$\chi^2=1.569$	p=0.456
20歳まで喫煙しない 自信	2011年	4.75	4.84	4.87	$\chi^2=2.735$	p=0.255	4.85	4.91	4.78	$\chi^2=2.677$	p=0.262
	2012年	4.78	4.88	4.85	$\chi^2=2.855$	p=0.240	4.83	4.93	4.95	$\chi^2=5.582$	p=0.061
	2013年	4.90	4.88	4.69	$\chi^2=7.915$	p=0.019*	4.81	4.89	4.84	$\chi^2=1.505$	p=0.471
たばこの勧めを拒否する 自信	2011年	4.67	4.66	4.72	$\chi^2=0.454$	p=0.797	4.65	4.77	4.68	$\chi^2=1.739$	p=0.419
	2012年	4.64	4.80	4.70	$\chi^2=3.532$	p=0.171	4.63	4.77	4.73	$\chi^2=2.446$	p=0.294
	2013年	4.80	4.81	4.66	$\chi^2=3.152$	p=0.207	4.60	4.80	4.60	$\chi^2=4.768$	p=0.092
		中学校 1 年生男子				中学校 1 年生女子					
調査項目		Y 中	T 中	U 値	p 値	Y 中	T 中	U 値	p 値		
20歳まで飲酒しない 自信	2011年	4.41	4.41	U=5927.0	p=0.793	4.33	4.38	U=5543.0	p=0.585		
	2012年	4.25	4.14	U=5652.5	p=0.699	4.13	4.11	U=5254.0	p=0.832		
	2013年	4.10	4.42	U=4434.0	p=0.033*	4.12	4.38	U=3118.5	p=0.108		
酒の勧めを拒否する 自信	2011年	4.27	4.40	U=5589.0	p=0.304	4.39	4.31	U=5488.5	p=0.501		
	2012年	4.35	4.20	U=5340.0	p=0.266	4.30	4.13	U=4960.0	p=0.348		
	2013年	4.28	4.52	U=4492.5	p=0.042*	4.09	4.25	U=3336.0	p=0.319		
20歳まで喫煙しない 自信	2011年	4.90	4.87	U=5789.5	p=0.431	4.85	4.83	U=5765.0	p=0.837		
	2012年	4.84	4.80	U=5447.5	p=0.484	4.84	4.80	U=5166.5	p=0.524		
	2013年	4.82	4.90	U=4900.5	p=0.123	4.80	4.88	U=3357.0	p=0.154		
たばこの勧めを拒否する 自信	2011年	4.88	4.76	U=5386.0	p=0.048*	4.74	4.74	U=5814.5	p=0.978		
	2012年	4.82	4.75	U=5382.0	p=0.314	4.75	4.76	U=5325.0	p=0.959		
	2013年	4.76	4.85	U=4852.5	p=0.130	4.63	4.80	U=3105.5	p=0.030*		
		中学校 2 年生男子				中学校 2 年生女子					
調査項目		Y 中	T 中	U 値	p 値	Y 中	T 中	U 値	p 値		
20歳まで飲酒しない 自信	2011年	4.09	4.48	U=4648.5	p=0.010**	4.13	4.08	U=3763.5	p=0.745		
	2012年	4.21	4.19	U=5071.0	p=0.802	4.10	3.83	U=3464.5	p=0.635		
	2013年	4.23	4.04	U=5201.0	p=0.304	3.88	3.74	U=4871.0	p=0.589		
酒の勧めを拒否する 自信	2011年	3.85	4.45	U=4344.0	p=0.001**	4.17	4.20	U=3803.5	p=0.841		
	2012年	4.06	4.34	U=4517.0	p=0.099	3.89	4.05	U=3330.0	p=0.363		
	2013年	4.34	4.10	U=5011.0	p=0.136	4.08	4.00	U=4923.0	p=0.678		
20歳まで喫煙しない 自信	2011年	4.73	4.86	U=4981.5	p=0.036*	4.80	4.79	U=3847.0	p=0.928		
	2012年	4.84	4.85	U=5090.0	p=0.898	4.78	4.87	U=3339.5	p=0.177		
	2013年	4.88	4.83	U=5406.5	p=0.385	4.84	4.72	U=4571.0	p=0.070		
たばこの勧めを拒否する 自信	2011年	4.70	4.77	U=5302.0	p=0.354	4.73	4.73	U=3816.5	p=0.840		
	2012年	4.76	4.77	U=5035.0	p=0.891	4.69	4.85	U=3154.5	p=0.042*		
	2013年	4.89	4.79	U=5101.5	p=0.055	4.83	4.69	U=4524.5	p=0.057		
		中学校 3 年生男子				中学校 3 年生女子					
調査項目		Y 中	T 中	U 値	p 値	Y 中	T 中	U 値	p 値		
20歳まで飲酒しない 自信	2011年	3.87	4.34	U=4019.0	p=0.010**	4.07	4.02	U=4275.0	p=0.993		
	2012年	3.86	4.17	U=3823.0	p=0.436	3.75	3.54	U=3712.0	p=0.720		
	2013年	3.95	4.49	U=4037.0	p=0.006**	3.93	4.08	U=3204.0	p=0.294		
酒の勧めを拒否する 自信	2011年	3.94	4.23	U=4407.0	p=0.116	3.87	4.14	U=3885.0	p=0.210		
	2012年	4.00	4.11	U=3948.5	p=0.779	3.80	3.90	U=3700.5	p=0.693		
	2013年	3.98	4.46	U=4006.0	p=0.005**	3.92	4.22	U=3059.0	p=0.125		
20歳まで喫煙しない 自信	2011年	4.79	4.74	U=4803.0	p=0.453	4.89	4.83	U=4079.0	p=0.349		
	2012年	4.79	4.74	U=3835.0	p=0.401	4.88	4.78	U=3561.5	p=0.143		
	2013年	4.82	4.85	U=4918.0	p=0.753	4.82	4.94	U=3165.0	p=0.040*		
たばこの勧めを拒否する 自信	2011年	4.74	4.70	U=4868.5	p=0.620	4.76	4.74	U=4203.0	p=0.778		
	2012年	4.72	4.72	U=4020.5	p=0.935	4.76	4.77	U=3837.5	p=0.890		
	2013年	4.76	4.80	U=4861.0	p=0.628	4.75	4.85	U=3236.5	p=0.183		

注1: 小学校の*は Kruskal Wallis 検定による有意確率が $0.01 < p \leq 0.05$, **は $p \leq 0.01$ であることを示す

注2: 中学校の*は Mann-Whitney 検定による有意確率が $0.01 < p \leq 0.05$, **は $p \leq 0.01$ であることを示す

注3: 表中の数字は各校の中央値を示す。中央値の高い方が自己効力感が高いことを示す

信、酒の勧めを断る自信、20歳まで喫煙しない自信のいずれにおいても、2011年はY中がT中より自己効力感が低かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。

中学校2年生女子では、たばこの勧めを断る自信について、2012年はY中がT中より自己効力感が有意に低かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。

中学校3年生男子では、20歳まで飲酒しない自信は2011年、2013年ともにY中はT中より自己効力感が低かった。酒の勧めを断る自信については、2011年、2012年は学校間に有意差は認められなかったものの、2013年の自己効力感ではY中がT中より有意に低かった。

中学校3年生女子では、20歳まで喫煙しない自信について、2011年、2012年には学校間に有意差が認められなかったものの、2013年はY中がT中より自己効力感が有意に低かった。

4) 学校満足度および地域との絆

学年別、性別、調査年別にみた学校満足度および地域との絆（挨拶、行事参加）の中央値を表8に示した。

小学校6年生男子では、地域の人との挨拶頻度は、2011年には有意差が認められなかったものの、2012年、2013年は、Y小がT小、TN小より頻度が有意に高かった。地域の行事への参加頻度については、2011年は、Y小はT小より高く、TN小より低かったものの、2012、2013年は、Y小がT小、TN小より頻度が有意に高かった。地域の行事への参加頻度は、2011年、2013年はY小がT小、TN小より有意に頻度が高かった。

小学校6年生女子では、地域の人との挨拶頻度については、2011年、2012年はいずれも有意差が認められなかったものの、2013年はY小がT小、TN小より頻度が有意に高かった。また、地域の行事への参加頻度については、2011年、2013年は

Y小がT小、TN小より頻度が有意に高かった。

中学校1年生男子では、地域の人との挨拶頻度は、2011年は有意差は認められなかったものの、2012年、2013年はともに、Y中がT中より頻度が有意に高かった。地域行事への参加頻度は、2011年はY中がT中より高かったものの、2012年、2013年はY中はT中より有意に低かった。

中学校1年生女子では、学校満足度は、2011年はY中がT中より有意に低かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。地域の人との挨拶頻度は、2011年はY中がT中より有意に高かったものの、2013年は学校間に有意差は認められなかった。地域の行事への参加頻度は、2011年、2012年は学校間に有意差は認められなかったものの、2013年は、Y中はT中より有意に低かった。

中学校2年生男子では、地域行事への参加頻度は、2011年、2012年は学校間に有意差は認められなかったものの、2013年は、Y中はT中より比べて有意に低かった。

中学校2年生女子では、地域の人との挨拶頻度については、2012年はY中がT中より有意に高かったものの、2013年では学校間に有意差は認められなかった。地域の行事への参加頻度は、2011年、2012年は学校間に有意差が認められなかったものの、2013年において、Y中はT中より頻度が有意に低かった。

中学校3年生男子では、いずれの項目においても学校間に有意差は認められなかった。

中学校3年生女子では、地域の人との挨拶頻度は、2011年はY中がT中より頻度が有意に高かったものの、2013年は有意差は認められなかった。地域の行事への参加頻度は、2011年はY中がT中より有意に高かったものの、2013年は有意に低かった。

表8 学年別・性別・調査年別にみた学校満足度および地域との絆（挨拶，行事参加）

調査項目		小学校 6 年生 男子					小学校 6 年生 女子				
		Y小	T小	TN小	χ^2 値	p 値	Y小	T小	TN小	χ^2 値	p 値
学校満足度	2011年	3.21	3.25	3.21	$\chi^2=0.200$	p=0.905	3.28	3.40	3.33	$\chi^2=0.729$	p=0.695
	2012年	3.22	3.33	3.00	$\chi^2=3.885$	p=0.143	3.33	3.25	3.44	$\chi^2=1.433$	p=0.489
	2013年	3.29	3.29	3.17	$\chi^2=0.867$	p=0.648	3.21	3.14	3.31	$\chi^2=1.373$	p=0.503
地域の人との挨拶頻度	2011年	3.58	3.54	3.52	$\chi^2=0.401$	p=0.818	3.51	3.48	3.58	$\chi^2=0.729$	p=0.695
	2012年	3.61	3.52	3.31	$\chi^2=7.513$	p=0.023*	3.51	3.52	3.32	$\chi^2=2.740$	p=0.254
	2013年	3.74	3.51	3.23	$\chi^2=20.237$	p<0.000**	3.51	3.19	3.37	$\chi^2=6.645$	p=0.036*
地域の行事への参加頻度	2011年	3.32	2.63	3.37	$\chi^2=12.124$	p=0.002**	3.48	2.55	3.31	$\chi^2=26.979$	p<0.000**
	2012年	3.30	2.71	3.24	$\chi^2=7.640$	p=0.022*	3.42	2.47	3.43	$\chi^2=21.357$	p<0.000**
	2013年	3.37	2.57	3.27	$\chi^2=19.692$	p<0.000**	3.29	2.74	3.23	$\chi^2=8.728$	p=0.013*
		中学校 1 年生 男子					中学校 1 年生 女子				
調査項目		Y中	T中	U 値	p 値	Y中	T中	U 値	p 値		
学校満足度	2011年	3.40	3.54	U=5425.5	p=0.180	3.15	3.41	U=4834.5	p=0.021*		
	2012年	3.02	3.23	U=5131.0	p=0.233	2.87	3.00	U=5095.0	p=0.551		
	2013年	3.14	3.25	U=4841.0	p=0.326	3.19	3.20	U=3636.5	p=0.991		
地域の人との挨拶頻度	2011年	3.58	3.42	U=5227.5	p=0.068	3.54	3.31	U=4790.5	p=0.013*		
	2012年	3.48	3.28	U=4810.5	p=0.031*	3.35	3.18	U=4708.0	p=0.110		
	2013年	3.67	3.38	U=3986.0	p=0.001**	3.37	3.43	U=3474.0	p=0.567		
地域の行事への参加頻度	2011年	3.32	3.05	U=5095.0	p=0.044*	3.32	3.12	U=5183.5	p=0.137		
	2012年	2.71	3.16	U=4658.0	p=0.016*	2.94	2.89	U=5126.5	p=0.771		
	2013年	2.58	3.26	U=3886.5	p=0.001**	2.80	3.34	U=2718.5	p=0.003**		
		中学校 2 年生 男子					中学校 2 年生 女子				
調査項目		Y中	T中	U 値	p 値	Y中	T中	U 値	p 値		
学校満足度	2011年	2.82	2.91	U=5399.0	p=0.614	2.92	3.00	U=3750.0	p=0.714		
	2012年	3.01	2.98	U=5054.0	p=0.772	3.14	3.12	U=3587.0	p=0.938		
	2013年	3.26	3.29	U=5580.0	p=0.896	2.97	3.02	U=4958.0	p=0.741		
地域の人との挨拶頻度	2011年	3.36	3.25	U=5192.5	p=0.257	3.45	3.26	U=3336.5	p=0.086		
	2012年	3.25	3.10	U=4621.5	p=0.194	3.40	3.14	U=2912.5	p=0.016*		
	2013年	3.47	3.29	U=4875.5	p=0.065	3.27	3.24	U=4971.0	p=0.758		
地域の行事への参加頻度	2011年	3.08	3.03	U=5488.5	p=0.679	3.20	3.15	U=3666.5	p=0.622		
	2012年	2.67	2.83	U=4769.0	p=0.373	2.78	2.88	U=3496.5	p=0.708		
	2013年	2.81	3.29	U=4270.0	p=0.002**	2.68	3.06	U=4150.0	p=0.017*		
		中学校 3 年生 男子					中学校 3 年生 女子				
調査項目		Y中	T中	U 値	p 値	Y中	T中	U 値	p 値		
学校満足度	2011年	3.06	3.03	U=4910.0	p=0.770	3.00	3.13	U=4204.5	p=0.731		
	2012年	3.33	3.29	U=3887.0	p=0.737	3.60	3.45	U=3441.0	p=0.148		
	2013年	3.43	3.17	U=4283.0	p=0.060	3.28	3.28	U=3503.5	p=0.955		
地域の人との挨拶頻度	2011年	3.41	3.29	U=4559.0	p=0.218	3.51	3.28	U=3492.5	p=0.012*		
	2012年	3.29	3.33	U=3896.5	p=0.757	3.35	3.16	U=3368.0	p=0.102		
	2013年	3.31	3.18	U=4518.0	p=0.199	3.31	3.14	U=3089.0	p=0.134		
地域の行事への参加頻度	2011年	3.18	2.98	U=4515.5	p=0.193	3.06	2.61	U=3382.5	p=0.007**		
	2012年	2.74	2.71	U=3980.0	p=0.964	2.69	2.51	U=3472.5	p=0.216		
	2013年	2.64	2.67	U=4963.5	p=0.930	2.40	2.83	U=2917.0	p=0.048*		

注1：小学校の*は Kruskal Wallis 検定による有意確率が $0.01 < p \leq 0.05$ ，**は $p \leq 0.01$ であることを示す

注2：中学校の*は Mann-Whitney 検定による有意確率が $0.01 < p \leq 0.05$ ，**は $p \leq 0.01$ であることを示す

注3：表中の数字は各校の中央値を示す。中央値の高い方が満足度／頻度が高いことを示す

IV. まとめと今後の課題

本研究の目的は、学校、地域（保護者、自治体）、警察、大学、市教育委員会が連携した包括的な取組の下、セルフエスティームの形成に基礎をおくライフスキル教育プログラムを実施し、青少年の危険行動防止における有効性を評価し、児童生徒の健全育成のための、より包括的で効果的なモデルを提示することであった。

以下では、1. ライフスキル教育プログラムの実施、2. 地域との連携活動、3. 質問紙調査、について、まとめと今後の課題を述べる。

1. ライフスキル教育プログラムの実施

学校、大学、県警、市教育委員会が連携してライフスキル教育実践に取り組んだことにより、計画的にプログラムを実施することが可能となった。また、教職員の研修の機会を数多く設けたことにより、教職員のライフスキル教育に関する知識や理解をより深めることができたと同時に、実践力を高めることができ、より効果的な授業実施につなげることができた。

今後は、指導者研修を継続して行うとともに、調査結果や、ライフスキル教育を行った教職員の意見を参考として、教育の対象となる児童生徒の実態により適したカリキュラムを組むよう工夫していく必要がある。

2. 地域との連携活動

保護者や地域住民を対象として、ライフスキル教育授業を公開したり、全校で取り組んでいるライフスキル教育を講演会で紹介したりすることで、保護者や地域住民に、ライフスキル教育に関する知識や理解を着実に促すことができたとともに、家庭教育、地域での教育活動においてもライフスキル教育の教育理念が活かされることが期待される。

また、保護者、地域、警察が一体となって児童生徒の健全育成を目指す様々な活動を行ったこと

で、児童生徒と地域との絆を深めることができたとともに、地域や警察に守られているという感覚を養うことができ、地域の中での居場所を確認することができた。同時に、保護者や地域の方の安全な町づくりに対する理解や協力を促すことができた。

今後は、こうした活動を継続的に行っていくことに加えて、「地域の子どもを地域で健全に育てよう」と考える地域住民をさらに増やしていくことが必要である。

3. 質問紙調査

1) セルフエスティーム、社会的スキル、ストレス対処スキル、意志決定スキル、目標設定スキル、メディアリテラシー、心の健康度

小学校6年生では、セルフエスティーム「友人」、「家族」、「全般」、社会的スキルの「向社会的スキル」、ストレス対処スキルの「サポート希求」、「問題解決」、意志決定スキル、目標設定スキル、メディアリテラシーといった好ましいスキルについて、2011年から2013年にかけて介入校が比較校より有意に得点が高くなったり、あるいは、2011年では好ましいスキルの得点が低かったものの2013年には介入校と比較校との間に有意差がなくなるなど、性別を問わず、総じて介入校の方が比較校に比べて好ましい方向へ変化したことが認められた。

中学生においては、2年生の男女のメディアリテラシー、3年生男子の社会的スキルの「向社会的スキル」において、2011年から2013年にかけて介入校が比較校より有意に得点が高くなったり、3年女子のストレス対処スキルの「気分転換」において2011年、2012年では介入校が比較校より有意に得点が高かったものの2013年では差がなくなったりと、好ましい方向に変化した項目が認められた。しかしながら、1年生男子の意志決定スキルや目標設定スキルのように、好ましいスキ

ルの得点が2011年から2013年にかけて低下していたり、一定の変化が認められなかったりした項目もあった。

以上のことより、とりわけ小学生において、ライフスキル教育および地域との連携活動の有効性が示唆されたといえる。

2) 飲酒、喫煙者率

小学生では、男子において、2012年では介入校が比較校より有意に生涯飲酒経験者率が高かったものの、2013年では介入校と比較校との間に有意差が認められなくなるなど、好ましい方向へ変化したことが認められた。一方、女子では、2013年の月飲酒者率が高くなるなど、好ましくない方向へ変化していた。

中学生では、2年生の男女において認められた有意差はいずれも、介入校の好ましい方向への変化であった。一方、1年生、3年生においては、2013年の生涯飲酒経験者率や月飲酒者率が介入校が比較校より有意に高くなるなど、好ましくない方向への変化が認められた。

以上のことより、ライフスキル教育および地域との連携活動の有効性は、とりわけ小学生の男子および中学校2年生において顕著であったと考えられる。

3) 飲酒、喫煙に関する自己効力感

小学生については、男子の20歳まで飲酒しない自信が2011年、2012年は介入校が比較校より有意に低かったものの、2013年では介入校と比較校との間の有意差がなくなったり、20歳まで喫煙しない自信は、2011年から2013年にかけて介入校が比較校より有意に高くなったりするなど、好ましい方向への変化が認められた。

中学生においては、2年生男子において、20歳まで飲酒、喫煙しない自信、酒の勧めを断る自信は、2011年は介入校が比較校より有意に低かったものの、2011年から2013年にかけて自己効力感

が高まるなど、好ましい方向への変化を確認できた。一方、1年生および2年生の男子において、20歳まで飲酒しない自信や酒の勧めを断る自信は、2013年はいずれも介入校が比較校より有意に低いなど、好ましくない傾向も認められた。

以上のことより、ライフスキル教育および地域との連携活動の有効性は、とりわけ小学生および中学校2年生の男子において認められ、自己効力感が好ましい方向に変化したことが示唆された。

4) 学校満足度および地域との絆

小学生では、地域の人との挨拶頻度、地域の行事への参加頻度はいずれも、2013年は介入校が比較校より有意に高いという好ましい傾向が示され、介入校の方がより地域との関係が深い傾向が多く認められた。

中学生では、1年生の男子において地域の人との挨拶頻度について、2011年では介入校と比較校との間に有意差は認められなかったものの、2012年、2013年は介入校が比較校より有意に高くなるといった好ましい方向への変化が認められた。しかしながら、2年生の男女の地域の行事への参加頻度は、2011年、2012年は介入校と比較校との間に有意差は認められなかったものの、2013年は介入校が比較校より有意に低くなるなど好ましくない方向への変化も認められた。

以上より、地域の人との挨拶頻度および地域の行事への参加頻度については、とりわけ小学生において、ライフスキル教育および地域との連携活動の有効性が明らかとなった。

V. 結論

・本研究では、学校、大学、地域、警察が連携したことにより、平成21年度より一貫してライフスキル教育、調査研究、地域との体験交流活動を実施、継続することができ、児童生徒の健全育成に一定の成果を得ることができた。したがって、学校、大学、地域、警察が連携した本研

究の一連の取組は、児童生徒の健全育成のための、より包括的で効果的なモデルとなることが示された。

- ・本研究では、とりわけ小学生、中学校2年生において、セルフエスティーム、ライフスキルやメディアリテラシー、あるいは飲酒、喫煙に関する自己効力感や学校満足度、地域との絆において、介入校が好ましい方向に変化したことが認められ、ライフスキル教育の一定の有効性が示された。
- ・介入校において、小学生の方が中学生と比べて、より好ましい方向への変化が認められたことにより、早期の介入がより重要であることが示された。
- ・地域との絆、挨拶の頻度に関しては、介入校の方がより好ましい方向に変化したことから、ライフスキル教育プログラムの実施に加えて、地域の連携活動が有効であり、そうした活動が教育効果を相乗的に高めることを示唆している。
- ・学校でのライフスキル教育の継続に加えて、保護者、地域住民、警察、教育委員会と連携した活動についても継続して行っていくことが必要である。
- ・ライフスキル教育の実施にあたっては、学習の効果を更に高めるために、児童生徒の実態等を踏まえ、カリキュラムの再編や改善を行う必要があることが示唆された。
- ・学校でのライフスキル教育プログラムを継続して実施するとともに保護者、地域、警察が連携した安心・安全なまちづくりの推進や体験交流活動等の中で子どもたちの居場所づくりを継続させることで、児童生徒のセルフエスティームが高まり、危険行動を防止するだけでなく、学校や地域における満足度を高め、生活の質(QOL)の向上が期待される。
- ・今後は、ライフスキル教育プログラムおよび地

域一体となった活動を継続的に行うことで、こうした取組の効果はさらに高まっていくものと考えられるため、そうした取組の短期的および長期的効果を検証することで、より有効性の高いライフスキル教育プログラムの開発を目指す。

引用文献

- 1) Jessor R: Problem behavior and developmental transition in adolescence. *Journal of School Health* 52 : 295-300, 1982
- 2) Cross D : Skill building in school health education : A solid foundation or house of cards ? *学校保健研究* 38 : 5-19, 1996
- 3) Mann M, Hosman CMH, Schaalma HP et al. : Self-esteem in a broad-spectrum approach for mental health promotion. *Health Education Research* 19 : 357-372, 2004
- 4) JKYB ライフスキル教育研究会 (代表 川畑徹朗) 編著 : 「きずなを強める心の能力」を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 小学校5年生用. 東山書房, 京都, 2008
- 5) JKYB ライフスキル教育研究会 (代表 川畑徹朗) 編著 : 「しなやかに生きる心の能力」を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 小学校6年生用. 東山書房, 京都, 2010
- 6) JKYB ライフスキル教育研究会 (代表 川畑徹朗) 編著 : 心の能力を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 中学生用 レベル1. 東山書房, 京都, 2005
- 7) JKYB ライフスキル教育研究会 (代表 川畑徹朗) 編著 : 「実践につながる心の能力」を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 中学生用 レベル2. 東山書房, 京都, 2006
- 8) JKYB ライフスキル教育研究会 (代表 川畑徹朗) 編著 : 「未来を開く心の能力」を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 中学生用 レベル3. 東山書房, 京都, 2007

- 9) Harter S : The perceived competence scale for children. Child Development 53 : 87-97, 1982
- 10) Pope AW, McHale SM, Craighead WE : Self-esteem enhancement with children and adolescents. Pergamon Press, NY, 1988
- 11) 遠藤辰雄, 井上祥治, 蘭 千壽 : セルフ・エスティームの心理学 自己価値の探求. ナカニシヤ出版, 京都, 1992
- 12) 嶋田洋徳, 戸ヶ崎泰子, 岡安隆弘ほか : 児童の社会的スキル獲得による心理的ストレス軽減効果. 行動療法研究 22 : 9-20, 1996
- 13) 大竹恵子, 島井哲志, 曾我祥子 : 小学生のコーピング尺度短縮版の作成. ヒューマンサイエンス 4 : 1-5, 2002
- 14) 春木敏, 川畑徹朗, 西岡伸紀ほか : ライフスキル形成に基礎をおく朝食・間食行動に関する教育プログラムの有効性を評価するための意志決定スキル, 目標設定スキル尺度の開発. 学校保健研究 49 : 187-194, 2007
- 15) Primack B : Smoking Media Literacy Scale. Availble at : <http://www.healthymissouri.net/cdrom/Smoking%20Media%20Lit%20Scale.pdf>. Accessed September 14, 2011
- 16) 柴田玲子, 根元芳子, 松寄くみ子ほか : 日本における Kid-KINDLR Questionnaire (小学生版 QOL 尺度) の検討. 日本小児科学会雑誌 107 : 1514-1520, 2003
- 17) 高倉実, 小林稔, 宮城政也ほか : 小中学生における心理社会的学校環境と時間症状の関連性の構造化 : WHO health behavior in school-aged children study の構成概念を適用して. 学校保健研究 48 : 18-31, 2006